調査研究報告書

生きる力を育む生活単元学習の在り方

平成23年３月

栃木県総合教育センター

ま　え　が　き

平成21年３月に、特別支援学校の幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領が公示されました。今回の改訂は、①教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること、②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること、③道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成することを基本方針としています。さらに特別支援学校においては、社会の変化や幼児児童生徒の障害の重度・重複化、多様化などに対応し、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育や必要な支援を充実することが方針として示されています。障害のある幼児児童生徒が、自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うためには、今後とも、一人一人の障害等に応じた、きめ細かな指導の充実を図っていくことが重要です。

生活単元学習は、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものとして、これまで、知的障害のある児童生徒に対し、生きる力を育む重要な教育活動の一つとして取り組まれてきています。しかしながら、生活単元学習は、その指導内容の明確さ、系統性や発展性のある指導計画の作成、単元や各授業の展開上の工夫、授業評価の在り方、そして主体性・自主性を発揮できる授業づくりなどに関して、様々な課題があげられています。生活単元学習のより一層の充実のために、これらの課題を解決することが求められています。

この「生きる力を育む生活単元学習の在り方」に関する調査研究報告書は、調査研究協力校である県立今市特別支援学校における平成21年度から22年度の実践の成果をもとに、生活単元学習の充実を図る上で必要な方策等についてまとめたものです。各特別支援学校、特別支援学級で展開されている生活単元学習のますますの充実、発展のために、有効に御活用いただければ幸甚です。

最後に、本調査研究に御協力いただきました県立今市特別支援学校の校長先生をはじめとする教職員の皆様、研究協力委員の先生方に深く感謝申し上げます。

平成23年３月

栃木県総合教育センター所長
瓦　井　千　尋

目　　次

第１章 研究の概要 ---------- 1

１　研究主題 ---------- 1

２　研究趣旨 ---------- 1

３　研究の目的 ---------- 1

４　研究の方法 ---------- 1

第２章 今市特別支援学校における実践 ---------- 4

１　生活単元学習に関する校内アンケートの実施と分析 ---------- 4

２　生活単元学習における指導内容表の作成（研究内容①） ---------- 5

３　単元配列表・年間指導計画の作成（研究内容②） ---------- 8

４　児童生徒が主体性・自主性を発揮できる授業づくり（研究内容③） ---------- 9

５　今市特別支援学校における授業実践 ---------- 12

― 小学部低学年（第２学年）における実践から ― ---------- 13

― 小学部高学年（第６学年）における実践から ― ---------- 20

― 中学部（第２学年）における実践から ― ---------- 26

第３章 研究のまとめ ---------- 32

１　研究成果等に関するアンケートの実施 ---------- 32

２　研究の成果等 ---------- 32

３　生活単元学習の充実、発展のために ---------- 36

― 参考文献 ― ---------- 38

― 資　　料 ―

資料１　生活単元学習における指導内容表〈小学部・中学部〉 ---------- 39

資料２　生活単元学習 単元配列表〈小学部・中学部〉 ---------- 48

資料３　生活単元学習 指導内容分析表（単元種別） ---------- 49

資料４　生活単元学習 年間指導計画（作成例） ---------- 50

資料５　生活単元学習 授業評価票 ---------- 51

資料６　授業研究会呈示資料 ---------- 52

【表紙写真】 ミズナラの大木（奥日光にて）

第１章　研究の概要

１　研究主題

「生きる力を育む生活単元学習の在り方 」

２　研究趣旨

特別支援学校における教育は、児童生徒のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な「生きる力」を育むことを大きなねらいとしている。そのために特別支援学校では、一人一人の教育的ニーズを踏まえ、特色ある教育課程を編成している。特に知的障害のある児童生徒に対しては、「各教科等を合わせた指導」を教育課程の中心として編成している。その中でも「生活単元学習」は、生活に密着した実際的・体験的な活動を行うことで、自立的な生活に必要な事柄を学習し、実践的に「生きる力」を身に付けることができる重要な学習として取り組まれている。この「生きる力」は、児童生徒が主体的に目標を達成したり、課題を解決したりする経験を蓄積する中で向上し、効果的な定着化が図られる。

生活単元学習は、このような意義や重要性から、特別支援学校小学部・中学部の知的障害のある児童生徒に対し、中核的な学習として様々な取組がなされている。一方で、生活単元学習は、自立と社会参加のために必要な指導内容や単元のテーマをどう選定するか、発展的な指導計画をどう作成すればよいか、児童生徒が主体的に力を発揮できる授業をどうつくるか、授業改善につながる評価の方法はどうあるべきかなど、「生きる力」を育む上での様々な課題を抱えながら展開されてきている。なお、平成21年３月に公示された学習指導要領では、一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導の充実が掲げられるとともに、各教科だけでなく、各教科等を合わせた指導においても、児童生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定する必要があることについて示された。

そこで、これまでの生活単元学習の取組を再考し、扱うべき指導内容及び、系統性や発展性のある単元構成について検討するとともに、授業実践を通し、児童生徒が主体性や自主性を発揮できる授業を実現するための方策等について具体的に明らかにする必要があると考える。また、このことによって、児童生徒は、明確に課題意識や学習の見通し、将来への希望をもって、主体的に学習に取り組むことができ、また、教師自身は、児童生徒の成長への希望を抱き、学習のねらいを踏まえた明確な指導イメージをもって指導に当たることができると考える。

これらのことから、当総合教育センターでは、生活単元学習の充実を目指し、「生きる力を育む生活単元学習の在り方」に関する調査研究を実施することとした。

３　研究の目的

自立と社会参加に必要な生きる力を育むために、特別支援学校における主体性・自主性を大切にした生活単元学習の充実に求められる要件等を明らかにする。

４　研究の方法

(1) 研究期間

平成21年４月から平成23年３月までの２年間

(2) 研究組織

県立今市特別支援学校（小学部・中学部）を研究協力校として委嘱し、次の(3)に示す三つの研究内容に関し実践研究を行った。また、県教育委員会事務局特別支援教育室と連携を図りながら研究を進めた。

今回の研究は小学部・中学部を対象として実施した。知的障害者に対する教育を行う特別支援学校の高等部では、卒業後の進路実現を目指して、「職業」、「家庭」、専門教科、作業学習等が学習の中心に位置付けられていることが多いことから、今回の研究では対象に含めないこととした。

栃木県立今市特別支援学校（研究協力校）―小学部・中学部
研究協力委員　・小林和正（学習指導主任）　・三品享子（小学部）　・森田記章（中学部）

○昭和58年４月開校（栃木県日光市瀬尾）　　○通学圏：日光市 塩谷町
○児童生徒数：小学部-39人 中学部-30人 高等部-59人 計128人（H22,5,1）　＊訪問教育含む
○教　員　数：72人（非常勤講師含む）

栃木県総合教育センター教育相談部
・石川一夫　・加藤健　・小山宏之　・久家康雄

栃木県教育委員会事務局特別支援教育室
・小野幸男

研究組織図

(3) 研究内容

研究趣旨で提起した課題を整理し、それに対応した三つの研究内容を以下のとおり設定した。

課　題　の　整　理

①生きる力を育むために、生活単元学習で何を学習するのか。
（社会において自立的に生きるために必要な、生活単元学習における指導内容の明確化）
②生きる力を育むために、生活単元学習でどのように学習を積み重ねるのか。
（小学部、中学部…へと系統性・発展性をもたせた単元の設定）
③生きる力を育むために、生活単元学習の授業をどのように展開していくのか。
（児童生徒の主体性・自主性を大切にしたきめ細かな授業づくり）

研　究　内　容

研究内容① 生活単元学習における 指導内容表の作成（１年目）	**研究内容②** 単元配列表・年間指導計画の 作成（１年目・２年目）	**研究内容③** 児童生徒が主体性・自主性を発揮できる授業づくり（２年目）
＊生活単元学習の意義や課題、充実に必要な要件等の確認 **→アンケート調査の実施** ○生活単元学習で育む力の分析 （育む力の構造モデルの作成） ○扱うべき指導内容の抽出 （既存の年間指導計画の確認） ○指導内容を、育む力や段階別に分類・整理 **→生活単元学習における指導内容表の作成**	○小１から中３まで扱うべき単元を種類ごとに分類 **→系統性・発展性を明確にした単元配列表（指導内容分析表）の作成** ○指導内容表や単元配列表に基づいて、年間の単元の設定や扱う指導内容、年間指導計画の様式等の検討 **→年間指導計画の作成**	○主体性・自主性を発揮できる授業の実現を目指した授業実践 **→主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点の明確化** **→単元指導計画等の作成上の工夫** （様式、記述内容の見直し、改善） **→有効な指導の手立ての整理** （指導の手立て工夫例整理表の作成） **→授業改善の工夫** （効果的な授業評価及び授業研究会の検討、実施）

研究の成果等の整理

＊研究成果等に関するアンケートの実施

○研究の成果等から、生きる力を育むために、主体性・自主性を大切にした生活単元学習の充実に必要な方策や構造等の要件を整理し考察する。

(4) 主な研究の流れ

○１年目（平成21年度）

月　日	主　な　内　容
５月11日 （月）	**○第１回調査研究委員会** ・研究計画及び年間スケジュールの確認、調整 ・生活単元学習の意義や課題の確認、生活単元学習に関した校内アンケートの内容の検討 ・指導内容、単元配列についての分析及び整理方法についての検討　　⇒　*校内アンケートの実施*
６月15日 （月）	**○第１回学校訪問** ・校内アンケートの結果分析を中心に、生活単元学習の意義や位置付け、課題等の再考 ・指導内容表、単元配列表、年間指導計画作成に向けての考え方及び進め方についての方向性の決定
９月14日 （月）	**○第２回学校訪問** ・指導内容表の検討①　　・単元配列表、年間指導計画作成に向けての考え方や進め方の検討
10月13日 （火）	**○第２回調査研究委員会** ・指導内容表の検討② ・指導内容分析表による今市特別支援学校の単元の系統性の現状確認　　・単元配列表の様式の検討①
12月２日 （水）	**○第３回学校訪問** ・公開授業の実施（授業見学と意見交換）　　・指導内容表の検討③　　・単元配列表の様式の検討②
12月11日 （金）	**○第３回調査研究委員会** ・指導内容表の検討④　→完成へ　・単元配列表、年間指導計画作成に向けての考え方及び手順の確認
１月30日 （土）	**○栃木県教育研究発表大会** ・調査研究の中間報告の発表
２月～４月	・単元配列表の作成　　・平成22年度生活単元学習年間指導計画の作成

○２年目（平成22年度）

月　日	主　な　内　容
５月11日 （火）	**○第１回調査研究委員会** ・本調査研究の趣旨や研究構造及び１年目の研究概要の確認 ・本年度の研究内容や研究計画の確認、調整 児童生徒が主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点の整理　単元指導計画等の様式、記述内容の検討 授業改善の工夫の検討（授業評価、授業研究会の方法）
６月29日 （火）	**○第１回学校訪問** ・研究授業及び授業研究会の実施 指導計画の適切性（単元設定の妥当性、扱う指導内容を踏まえた目標及び学習活動等の設定の妥当性） 指導の手立ての有効性
７月13日 （火）	**○第２回調査研究委員会** ・研究授業を中心に、これまでの実践による成果と課題の確認① 単元指導計画等の様式、記述内容　　授業評価、授業研究会の工夫 ・指導の手立ての工夫例の整理方法の検討①
９月27日 （月）	**○第２回学校訪問** ・研究授業及び授業研究会の実施 指導計画の適切性（単元設定の妥当性、扱う指導内容を踏まえた目標及び学習活動等の設定の妥当性） 指導の手立ての有効性
10月12日 （火）	**○第３回調査研究委員会** ・研究授業を中心に、これまでの実践による成果と課題の確認② 単元指導計画等の様式、記述内容　　授業評価、授業研究会の工夫 児童生徒の変容、教師の意識変容の状況 ・指導の手立ての工夫例の整理方法の検討②　→指導の手立て工夫例整理表の作成へ
11月30日 （火）	**○第３回学校訪問** ・研究授業及び授業研究会の実施 指導計画の適切性（単元設定の妥当性、扱う指導内容を踏まえた目標及び学習活動等の設定の妥当性） 指導の手立ての有効性　　⇒　*研究成果等に関するアンケートの実施*
12月10日 （金）	**○第４回調査研究委員会** ・研究成果等に関するアンケートの集計、意見の集約 ・研究成果等の整理　　・授業づくりの構造の整理
１月29日 （土）	**○栃木県教育研究発表大会** ・調査研究の成果報告の発表
１月 ～３月	**○校内における研究紀要の作成　　○総合教育センターにおける調査研究報告書の作成** **○研究成果等を踏まえた次年度の生活単元学習年間指導計画等の作成**

第２章　今市特別支援学校における実践

１　生活単元学習に関する校内アンケートの実施と分析

(1)アンケートの目的

研究に携わる今市特別支援学校の教師が、これまでの生活単元学習の取組から、その意義や課題などについてどのようなとらえ方をしているかを把握するためにアンケートを実施した。回答状況の分析に当たっては、特別支援学校学習指導要領解説等の生活単元学習の位置付けや、これまでの各研究機関、研究校等の研究成果などを参考に検討し、本研究の目的や研究内容を再確認していくとともに、研究の具体化に反映させるよう考慮した。

(2)アンケートの内容

次の設問の内容について記述式で回答を求めた。（平成21年5月実施）

① 生活単元学習の意義、重要性について
② 生活単元学習で育む力について
③ 生活単元学習の充実を図るためのポイントや視点、具体策について
④ 児童生徒が主体的に取り組めるように工夫したこれまでの実践内容について
⑤ 生活単元学習を実施する上での課題や疑問、困難さについて

(3)アンケートの回答状況

回答の概要は以下のとおりである。

①「生活単元学習の意義、重要性」

「将来の社会的自立に向けて、生活に必要な事柄を学習したり経験したりできること」や「児童生徒が主体的に行えること」、「人と関わったり、集団で活動したりする力を身に付けられること」に関することなどを意義と考える意見が多くあげられた。

②「生活単元学習で育む力」

これまでの実践をもとに、「集団生活に適応できる力」、「協力して活動する力」、「日常の生活を営む力」、「将来について考える力」、「自然と関わり合う力」、「意欲的に取り組む力」、「持続する力」など、自ら生活を営み、社会によりよく適応するために必要な様々な力が幅広くあげられた。これらの多様な力を分類、整理していくことを通して、生活単元学習で育むべき力の明確化を図る必要がある。

③「生活単元学習の充実を図るためのポイントや視点、具体策」

「将来の社会的自立に向けて生活に必要な事柄を内容に盛り込むこと」、「小・中・高の系統性」、「個の実態や課題を把握し興味や意欲をもたせ取り組める内容設定を行うこと」、「活動を分かりやすくしたり、見通しをもたせたりすること」、「授業構成の工夫」、「学習集団内の関わりのもたせ方」、「教師連携の工夫」に関する意見が多くあげられた。

④「児童生徒が主体的に取り組めるように工夫したこれまでの実践内容」

様々な実践の工夫が報告された。これらは、「児童生徒の興味・関心を生かしたり、興味・関心のもてる題材を活用したりする工夫」、「活動を分かりやすくしたり、見通しをもたせたりする工夫」、「人と関わり合う力を育む工夫」、「自己選択・自己決定する機会をつくる工夫」などに整理できた。

⑤「生活単元学習を実施する上での課題や疑問、困難さ」

「生活単元学習の学習内容や目標の明確化」、「行事中心の生活単元学習の在り方」、「個の実態にあった目標、内容、評価の在り方」、「障害の違いや能力差がある集団やグループでの学習の設定の仕方」などに関する意見があげられた。

(4) アンケート結果の分析

① 生活単元学習の意義、重要性について、的確にとらえられている。
② 生活単元学習で育む力は、後述する四つの力（かかわる力、生活する力、働く力、楽しむ力）と基盤の力に大別でき、また、これらの力は、指導内容を分類して整理する上でも活用できると推察される。
③ 生活単元学習を充実させていくために、指導内容の明確化や系統性・発展性のある単元の設定、児童生徒が主体的に取り組めるきめ細かな授業づくりの必要性を多くの教師が抱いている。
④ 児童生徒が主体的に取り組むための様々な工夫が数多く実践されている。これらの工夫を分かりやすく整理して、授業づくりの充実に役立てていくことが大切であると考える。
⑤ 学習内容や目標の明確化、単元のテーマ設定に関する課題は、１年目の研究である指導内容表や単元配列表の作成と、目標や学習活動の設定などに関する課題は、２年目の研究である、主体性・自主性を発揮できる授業づくりと関連付けて、その解決を図っていく必要性が確認できた。

2　生活単元学習における指導内容表の作成（研究内容①）

(1) 指導内容表作成の意義

生活単元学習は、社会において「自立的な生活に必要な事柄」を実際的・総合的に学習する中で、主体的に「生活上の目標を達成したり、課題を解決したりする」力を培うことを目指している。

そのために生活単元学習を計画、展開していくには、生きる力の要素や学習指導要領に示されている各教科等の内容及びこれまでの生活単元学習の実践をもとに、生活的な目標や課題が設定しやすい生活としてのまとまりのある具体的な指導内容を明らかにし、指導内容表として整理していく必要がある。アンケート結果の分析からも指導内容の明確化や、系統性・発展性のある指導内容の設定の重要性が指摘されている。作成した指導内容表は、年間指導計画や単元指導計画等を作成する際に活用することで、児童生徒の実態や課題、単元や各学習活動のねらい、評価の観点などをより焦点化することができる。また、教師が、児童生徒の成長への希望を抱き、学習のねらいや意図を踏まえた明確な指導イメージをもって指導に当たる上でも大いに役立つことが期待される。一方、指導内容表の活用は、児童生徒にとっても、明確な目的意識や課題意識、学習の見通し、そして将来への希望をもった主体的な学習の取組につなげられると考える。

以上のことから、生活単元学習の具体的な指導内容を系統的・発展的に整理し、今市特別支援学校の小学部から中学部における、生活単元学習の指導内容表を作成することとした。

(2) 四つの力と基盤の力

生活単元学習の指導内容表の作成に当たっては、まず、今市特別支援学校や県内の他の特別支援学校及び他県の研究校における取組、キャリア教育の視点などを参考に、生活単元学習で育んでいく力を、次に示す四つの力（かかわる力、生活する力、働く力、楽しむ力）と基盤の力に大別してとらえることを考案した。その上で、四つの力が基盤の力に支えられ様々な生活場面で実際に発現する姿として、具体的な指導内容を整理していくこととした。

四つの力については次のように位置付けた。

四つの力	かかわる力	・自己理解を深め、自己を調整しながら、他者や集団及び社会とよりよく関わっていく力
	生活する力	・日常の家庭生活や社会生活を営んでいくために必要な、知識・技能・態度などの基礎・基本となる力
	働く力	・将来の職業的自立や社会的自立に必要な資質形成の基礎・基本となる力
	楽しむ力	・様々な環境と触れ合い、表現したり、感動したり、楽しんだりしながら豊かに生きていく力

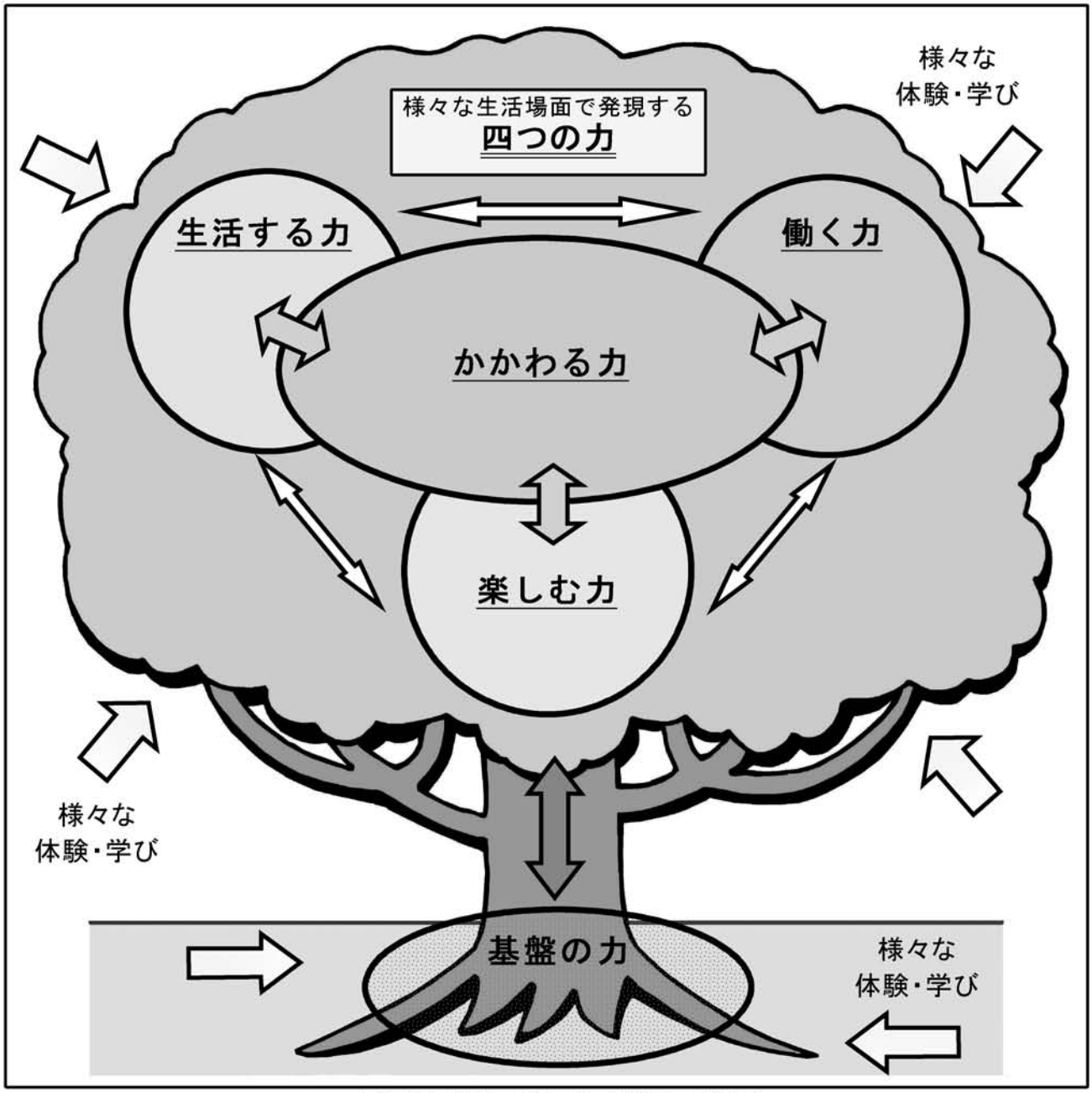
また、「基盤の力」は、四つの力の発現のために必要な内面的な力であるととらえ、次のように位置付けた。

基 盤 の 力	・四つの力を支える基盤となり、自己を高め、よりよく生きようとするために必要な内面的な資質や能力（「自信」、「関心・意欲」、「自己決定力」、「自己評価力」など）

基盤の力は、四つの力が行動として発現するためには不可欠な力である。基盤の力に支えられながら四つの力が育ち、同時に、四つの力が育っていく中で、基盤の力もより確かな力に育っていくと考える。四つの力と基盤の力は双方向の関係にあり、各授業では、四つの力とともに、必然的に基盤の力も育まれていくととらえられる。

このような枠組みを想定することで、児童生徒が「自立的な生活に必要な事柄」を学びながら、同時に、主体的に「生活上の目標を達成したり、課題を解決したりする」力を身に付けることができるように、指導内容を整理していくことができると考えた。

生活単元学習で育む力の構造モデルを、木が成長するイメージとして次の図に示す。



生活単元学習で育む力の構造モデル図

(3) 四つの力の観点からの指導内容の整理

四つの力の観点から、これまでの生活単元学習の実践を分析し、小学部・中学部の全教師で検討し合い、生活としてのまとまりに留意しながら、四つの力ごとに指導内容を整理した。実際には、厳密に一つの力の中に位置付けることが難しい指導内容もあるが、最も関連性の高い力の中に類別することとした。同時に特別支援学校学習指導要領解説にある各教科等の内容の観点からの検討をし、各教科等を合わせた指導として適切であるかどうかについても確認しながら指導内容を整理した。また、教科別の指導や、他の各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、作業学習など）で扱う指導内容との区分けについても考慮した。

指導内容は、指導に当たっての視点が分かりやすいように、さらにいくつかの指導項目、指導事項ごとに分類するとともに、今市特別支援学校の学習集団の特徴を踏まえて、小学部低学年、小学部高学年、中学部の３段階に分けて表記することとした。

(4) 今市特別支援学校における生活単元学習の指導内容表の作成

(1)～**(3)**の考え方や方法で、指導内容表（**資料１**：Ｐ39～47）を作成した。

なお、実際の活用に当たっては、学習集団の各児童生徒の実態は多様であるので、指導内容の段階は柔軟に扱っていく必要があるが、段階別の表記によって学習集団全体の目標や学習活動を設定する際の手がかりとすることができると考える。

(5) 公開授業の実施

指導内容表の検討と並行して、生活単元学習の公開授業を下記の目的、内容で実施した。

①公開授業の目的

四つの力を踏まえて目標や学習活動を設定した授業を公開し、教師が、四つの力の観点に基づく指導の有効性を確認するとともに、２年目の研究である「児童生徒が主体性・自主性を発揮できる授業づくり」の重要性を改めて再認識することを目的とした。

②授業日時・内容

実施日	学部	学年学級	時　間	場　所	内　　容
平成21年 12月２日 （水）	小学部	３年１組	10:00～ 10:45	小３－１ 教　室	「冬の生活 合同お楽しみ会をしよう —かざりを作ろう—」
	小学部	４年 １～３組	10:30～ 11:15	小　４ 教　室	「冬の生活 合同お楽しみ会をしよう —招待状を作ろう—」
	中学部	１年 １・２組	11:10～ 12:00	中　１ 教　室	「校外学習へ行こう —路線バスに乗ろう—」

③公開授業の様子

・小学部の二つの授業では、完成品や写真を見せるなどして目標意識や見通しをもたせたり、塗る色やパーツを選択するなどの自己決定力を養う場面が意図的に設けられたりして、主体性・自主性を発揮できる手立てが検討され、授業の中で実践されていた。

・中学部の授業では、公共交通機関であるバスの利用の仕方について、自分一人でバスに乗るにはどのような課題を解決すればよいのかを考えさせるために、視聴覚機器を効果的に活用した分かりやすい授業展開がなされていた。

・どの授業においても、本時の四つの力と関連付けた単元や授業の目標を十分に意識し、その目標の達成のために、学習活動の設定や、指導の手立て、個々の児童生徒への教師の関わり方などに工夫がなされていた。

④公開授業の成果

公開授業を通して、育むべき四つの力をしっかりと押さえ授業づくりを行っていくことで、目標や学習活動、指導の手立ての意図が明確になり、授業の充実が図れることが分かった。

３　単元配列表・年間指導計画の作成（研究内容②）

― 単元配列表の作成 ―

(1) 生活単元学習における単元の系統性・発展性に関する課題

生活単元学習は、児童生徒が目標や課題を意識しやすいテーマのもとに、自然な生活としてのまとまりのある形で、学習すべき自立的な生活に必要な事柄が実際的・総合的に組織されている。

実際の生活単元学習の指導計画では、同一のテーマに基づく単元が毎年繰り返し設定されることも多いが、このことは、児童生徒が目標や見通しをもつ上で大切なことと考えられる一方で、学年が変わったにもかかわらず、全く同一の学習内容が繰り返されてしまい、学習に系統性・発展性がなくなってしまうことが危惧される。そこで、前の学年から次の学年へ、小学部から中学部へと確実に学習を積み重ねていくためには、個々の指導内容を整理するだけではなく、小１から中３までの同一テーマの単元を比較しながら検討し、単元配列表としてまとめていく必要があると考えた。

(2) 単元配列表作成の意義

(1) の課題を踏まえて、単元配列表を作成する意義を下記にまとめる。

① 指導内容について系統性をもたせて各単元の中に位置付けることができる。
四つの力に分けて整理した指導内容表をもとに、指導内容が、小１から中３まで系統的に指導されるように単元配列を組み立てていき、指導内容の系統的な指導を具体化する。

② 同一の単元の種別やテーマごとに発展性をもたせることができる。
小学部低学年から中学部まで、単元の種類やテーマごとに発展性を吟味して単元を組み立て、単元配列表として整理することで、単元の位置付けや単元間の継時的な関係を見渡すことができる。

③ 生活単元学習の全体像を踏まえて単元設定を見直すことができる。
生活単元学習の全体像を踏まえて、重点的に扱う指導内容やそのバランス、年間及び次年度以降の指導の流れを見据えながら、単元の設定や配当を検討することができる。

④ 単元配列表をもとにすることで、これまでの学習の積み重ねや次年度以降の学習のつながりを押さえながら年間指導計画を作成できる。

(3) 単元配列表作成に向けた具体的な手順

単元を再構成するために、小１から中３までの単元の種別やテーマ及び指導内容を見通せる一覧表である単元配列表を次の手順で作成した。なお、単元のテーマや重点的に扱う指導内容などから、単元を12種に区分して整理し、単元配列表にまとめた。

① 今までの年間指導計画を分析し、指導内容が小１から中３までの、どの単元で指導されているかを一覧できる指導内容分析表を作成する。
② 指導内容分析表の記載内容が適切かどうかを各学年担当者が現行の年間指導計画と見比べながら確認し、次年度の年間指導計画の学習内容で修正すべき点について検討する。
③ 教師間で同種の単元ごとに担当を分担し、小１から中３までの現行の年間指導計画を見直して、どうすれば系統性・発展性をもたせることができるかについて検討する。
④ 検討をもとに、小１から中３までの単元の種別とテーマ及び指導内容を見通せる次年度の単元配列表を作成する。

(4) 今市特別支援学校における生活単元学習の単元配列表

資料２（Ｐ48）参照（指導内容分析表 **資料３**（Ｐ49）参照）

― 年間指導計画の作成 ―

(1) 系統性・発展性のある年間指導計画作成の意義

生活単元学習は、社会において自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習する中で、効果的に生きる力を育んでいく学習である。生きる力を確実に育んでいくためには、系統性・発展性のある指導のもと、学習や経験を積み重ねていくことが不可欠であり、その実現に向けて、年間指導計画の充実を図っていく必要がある。そこで、既存の年間指導計画をもとにして、指導内容表や単元配列表を活用した年間指導計画を作成することとした。この年間指導計画の作成の意義を次に示す。

① 前学年や次学年以降への系統性・発展性を押さえながら、年間の単元の配列を検討したり、各単元のねらいや学習活動を設定したりすることができる。
② 年間を見通して、どの単元でどのような力を育んでいけばよいかを明確にすることができる。
③ 育む力や扱っていく指導内容等について担当教師間で話し合って作成していくことで、生活単元学習の位置付けや各単元のねらい等に対する共通理解を深めることができる。

(2) 年間指導計画作成の具体的な手順

単元配列表をもとに、次の手順で年間指導計画を作成した。

① 既存の様式をもとに、各単元で重点的に育んでいく力を記号で表記する。
② 指導内容表、単元配列表をもとに、各単元のねらい、主な学習活動、学習活動の構成など、おおまかに単元の内容をイメージしながら作成する。
③ 年間指導計画がほぼ完成したら、学年を超えて同一テーマごとに並べ直し、系統性・発展性をもたせることができているか記載内容を確認し、必要に応じて修正する。
④ ①～③の中で、教師間で内容を吟味し合い、どのように教師間で連携するかについて明確にしながら年間指導計画を作成する。
⑤ その他、次の点を参考にしながら作成する。
生きる力の理念、育む力（四つの力、基盤の力）の位置付け、特別支援学校学習指導要領解説の生活単元学習の考慮点　など

(3) 年間指導計画作成例

資料４（Ｐ50）参照

４　児童生徒が主体性・自主性を発揮できる授業づくり（研究内容③）

研究２年目での「児童生徒が主体性・自主性を発揮できる授業づくり」に関する研究では、すでに作成した指導内容表や単元配列表、年間指導計画をもとにして、各単元や各授業の指導計画における目標や学習活動を設定するとともに、授業の中で児童生徒が、主体性・自主性を十分に発揮できるようにしていくことを特に目指した。主体性・自主性を発揮している姿とは、自ら課題を見つけ、自分が何をすればよいかを自己決定し、自信をもって意欲的に取り組んでいる姿ともいえ、このような姿が見られる学習の中でこそ、四つの力、そして基盤の力を確実に培うことができると考える。また、教師が児童生徒の実態や、単元及び各授業のねらいや目標、扱う指導内容、指導の手立ての意図などをしっかりと念頭に置き、児童生徒が主体的に力を発揮できる状況をつくっていくことが必要である。

これらのことを踏まえて、主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点、単元指導計画等の作成上の工夫、有効な指導の手立ての整理、授業改善の工夫について、授業実践を通して、その方策を検討し、授業づくりの在り方について追究することとした。

(1) 主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点の明確化

指導計画の作成や指導の手立ての設定のために、児童生徒が主体性・自主性を発揮して活動して

いる姿から、主体性・自主性を発揮できる授業づくりに必要な視点を次のとおり六つに整理し明確化した。この六つの視点は、児童生徒が自分でやろうとする状況、自分でできる状況をつくるために必要な視点であるといえ、このような状況の中で児童生徒は、主体的・自主的に取り組み、自分の力を精一杯発揮できる。そこで、この授業づくりの視点を授業の構成や特に指導の手立ての検討の際に活用していくことで、効果的に授業の充実が図れると考えた。

○児童生徒が主体性・自主性を発揮して活動している姿の例

・やってみたいという気持ちをもって活動し、行っていること自体に満足感をもっている。
・何を学びたいか、何を身に付けたいか目的意識をもって活動に取り組んでいる。
・自分が何に取り組めばよいかをよく理解し、見通しをもって安心して活動に取り組んでいる。
・自分のやってみたいことを何らかの方法で伝えたり、選択肢の中から自分で選んで活動している。
・活動の結果を予測し、やり終えた後に振り返って満足している。
・仲間にやりたいことを伝えたり、仲間と話し合ったりしながら楽しく協力して活動に取り組んでいる。　など

◎主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点

① 興味・関心
児童生徒の興味や関心を生かした授業展開や、教材・教具の活用がなされた授業であること

② 見通し・分かりやすさ
児童生徒が、授業の見通しがもちやすく、学習活動が分かりやすい授業であること

③ 目的意識・課題意識
児童生徒が、目的や課題に対する目標をもち、その達成に向けて取り組める授業であること

④ 自己選択・自己決定
児童生徒が、自分で選択したり決定したりできる場面や活動が設定された授業であること

⑤ 自己評価
児童生徒が学習を振り返り、自分で評価できる場面や活動が設定された授業であること

⑥ 満足感・達成感
満足感や達成感が十分に得られ、教師や友だちと共有し合える授業であること

(2) 単元指導計画等の作成上の工夫（様式、記述内容の見直し、改善）

これまでに作成した指導内容表、単元配列表、年間指導計画及び、「主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点」を踏まえ、単元指導計画や時案（１単位時間の授業計画）について、これまでの様式をベースに次のように改善を図った。このことから、単元や授業のねらい、目標、扱う指導内容、指導の手立ての意図などを明確にすることができ、効果的な授業展開ができると考えた。また、単元指導計画や時案は、関係する教師間で検討を重ねるとともに、共通理解を図りながら作成する体制を整えた。

（実際の様式、記述については、「**５　今市特別支援学校における授業実践**」Ｐ13～16、20～23、26～29参照）

・単元目標と指導内容表における四つの力の関連を記号で表記する。
・単元で重点的に扱う指導項目（指導内容表より）を記載する。
・各学習活動ごとに重視する指導項目や指導事項（指導内容表より）を記載する。
・指導の手立て・留意点の文頭に、関連する「主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点」を①～⑥で表記する。

(3) 有効な指導の手立ての整理（指導の手立て工夫例整理表の作成）

「主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点」に立った指導の手立ての工夫については、授業実践を通しその効果を確認し、有効な指導の手立ての工夫例を表にまとめた。これは、次年度の

同単元の指導計画の作成のみでなく、他の単元や他学年の単元指導計画の作成も含めて、幅広く活用していくために、単元（授業）毎に、「主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点」ごとに写真も交えて分かりやすく整理したものである。

（実際の作成例については、「**５　今市特別支援学校における授業実践**」Ｐ19、25、31参照）

(4)授業改善の工夫（効果的な授業評価及び授業研究会の検討、実施）

主体性・自主性を発揮できる授業づくりのために、次の①②に示す、授業改善に向けた効果的な授業評価の工夫、授業研究会の工夫について検討し、それに基づいた実践を通し、その有効性を検証した。

①各単元・各授業における授業評価の工夫

〇単元評価票について

今後の単元の授業改善を念頭に様式を検討し、単元設定や目標、授業構成、指導内容の扱い方など単元全体に関すること、「主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点」からの各学習活動に対する指導の手立ての有効性に関すること、の二つ点から評価の項目を示すこととした。また、今後の充実に向けての具体的な意見を記述できるようにした。実際の作成は、担当教師で十分に評価し合って記述していくことについて共通理解を図った。

（実際の作成例については、「**５　今市特別支援学校における授業実践**」Ｐ18、24、30参照）

〇授業評価票について（資料５：Ｐ51参照）

今後の各授業の改善につなげるために、日常の授業評価や研究授業等の参観用に授業評価票を作成した。単元評価票の評価項目との連動を図り、扱った指導内容や学習活動、授業構成に関する妥当性の評価や、指導の手立ての充実や改善に向けた授業づくりの視点ごとの意見などが記入できるものにした。この授業評価票の評価内容は、授業研究会においても活用した。

②授業研究会の工夫（教師自身の力量アップのための研修の機会として）

小学部低学年、小学部高学年、中学部それぞれ年間２回の研究授業と、それに対応した授業研究会（計６回）を実施した。授業研究会の方法は様々なスタイルが考えられるが、１時間程度での設定や参加者の負担感、効率性を考慮し、次の点に留意して授業研究会を企画した。

・授業研究会は、一つの授業を活用したよりよい授業づくりのための学び合いの場であることについて、十分に共通理解を図る。
・参観者は記入した授業評価票を授業終了後に提出し、担当者は、参観者の意見等を集約してまとめるとともに、指導内容や学習活動、授業構成に関する妥当性の評価をグラフ化する。これらは印刷し授業研究会時に配付し、さらにモニターにも示し、参観者の意見を共有するようにする。
・授業者からの授業の説明は、特に重視したことや工夫点、計画や実施において不安に思ったこと、参観者から得たい情報などとし、反省点の説明にならないようにする。
・授業者は、計画や実施における指導内容の明確化の効果、「主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点」からの指導の手立ての設定やその効果に関する意見についても述べるようにする。
・授業者や授業評価票の意見から協議テーマを一つ二つに絞り、学び合いが深まるようにする。
・展開によっては、意見が出やすいよう小グループで協議し意見の集約を図るようにする。

◎授業研究会の基本的な流れ

① 授業者からの、工夫点や成果、参観者から得たい情報等の説明
② 授業評価票から、指導の手立てに関する意見のまとめをモニターに呈示
（実際の呈示例　**資料６**：Ｐ52 参照）
③ 協議・意見交換（テーマを絞っての協議　小グループでの協議）
④ 授業評価票から、指導内容や学習活動、授業構成の妥当性の評価結果をモニターに呈示
（実際の呈示例　**資料６**：Ｐ53 参照）
⑤ 今後の充実や改善に向けてのまとめ、講評

5　今市特別支援学校における授業実践

検討した様式による単元指導計画の作成、それに基づく授業の実施、単元評価票による振り返りについて、担当教師間で十分に共通理解を図りながら年間を通して実践を重ねた。さらに、研究授業、授業研究会を次のとおり実施し、児童生徒が主体性・自主性を発揮できる授業づくりについて追究した。

実施日	学部	学年学級	時　間	場　所	内　　容
平成22年 ６月29日 （火）	小学部 （低）	２年 ２組	10:00～ 10:45	小２－ ２教室	「夏の生活 ―さまざまな水のあそび―」 授業研究会：14:00～15:00
	中学部	２年 １・２組	11:00～ 11:50	中　２ 教　室	「校外学習へ行こう ―電車に乗ろう―」 授業研究会：15:30～16:30
平成22年 ９月27日 （月）	小学部 （高）	６年 １・２組	10:00～ 10:45	小　６ 教　室	「修学旅行に行こう 行き方･泊まり方を知ろう ―荷物調べ―」 授業研究会：14:00～15:00
	中学部	１年 １・２組	11:00～ 11:50	中　１ 教　室	「校外宿泊学習へ行こう ―持ちものを考えよう―」 授業研究会：15:30～16:30
平成22年 11月30日 （火）	小学部 （低）	２年 １組	10:00～ 10:45	小　２ 教　室	「冬の生活　お楽しみ会をしよう ―クリスマスリースを作ろう―」 授業研究会：14:00～15:00
	小学部 （高）	４年 １・２組	11:00～ 11:50	小　４ 教　室	「野菜や花を育てよう ―野菜の収穫と調理･カボチャプリンを食べよう―」 授業研究会：15:30～16:30

次ページから、小学部低学年、小学部高学年、中学部の実践例として、単元指導計画、研究授業における授業内容、授業研究会での意見、単元評価票、指導の手立て工夫例整理表について掲げる。

― 小学部低学年（第2学年）における実践から ―

(1)研究授業（平成22年11月30日実施）で実施した授業に関する単元指導計画

小学部２年

単元名	冬の生活	指導期間	11月～１月　　総時数(15)

単元設定の理由	この単元では、小学部全体で行う季節の行事や、学級で行う制作活動や遊びを通して、冬の季節ならではの催し物や遊びがあることを知り、その遊びを楽しむことによりこの季節を味わってほしいと考えた。また、自分の作ったかざりや作品が展示されることをあらかじめ伝えた上で、お楽しみ会のかざりづくりや作品展の作品づくりをすることは、目的意識や意欲を高める上で大変重要である。一生懸命に作品づくりに取り組むことの楽しさをより深く体験できればと考え、本単元を設定した。 さらに２学期の学習活動を振り返り、冬休みの日程や簡単な決まりを確認し、安全で楽しい冬休みを過ごせるようにしたいと考えた。
単元目標	・季節の行事に親しみ、楽しく活動することができる。　◎○☆ ・冬の遊び（雪遊び・たこあげ等）を楽しむことができる。　☆ ・作品展などに向けて作品を作ることができる。　●☆
主な指導項目	◎：自己の理解と対処　かかわりあいの基礎　集団参加 ○：健康管理　整理整とん　掃除　調理　日程･予定 ●：約束ときまり　道具の使い方 ☆：遊び　作品制作　表現活動　季節と自然

単元構成及び学習活動（主な指導項目－指導事項）	指導の手立て・留意点
１　お楽しみ会をしよう　時数（５）	
(1)お楽しみ会までの日程・内容	
◎かかわりあいの基礎―他者の話への注目･理解･応答　集団参加―集団への参加と役割､集団のマナーやルール　○日程･予定―年月日･曜日､予定　☆季節と自然―季節の行事	
・昨年の内容を振り返る。 ・お楽しみ会当日の日程・内容を知る。	・①②③昨年度の写真などを呈示し、活動内容を思い起こさせるとともに、活動内容を十分に説明し、当日スムーズに活動できるようにする。
※研究授業の実施	
(2)お楽しみ会のかざりづくり	
●道具の使い方―名称･知識､扱い方･危険防止､片付け･保管　☆作品制作―表現	
・色画用紙、折り紙などを使ったリースや輪かざりを作る。	・①②③⑥試作品を呈示して見通しをもたせたり、材料の特性や感触を十分楽しんだりしながら制作できるようにする。 ・④材料は自由に選べるようにする。 ・⑤⑥できあがった作品を鑑賞し合い、友だちの作品も意識できるように促す。
２　冬の遊びをしよう　時数（３）	
(1)冬に関連した様々な遊び	
◎かかわりあいの基礎―楽しさの共有　集団参加―集団への参加と役割 ●約束ときまり―きまり　☆遊び―遊び･ゲーム･スポーツ	

・たこあげ ・雪遊び ・福笑いなど	・①安全面、体調等に配慮しながら、体全体で楽しめる遊びを呈示する。 ・②③事前に確認することで、順番や簡単な決まりを守って遊ぶことを意識させる。 ・④たこあげのたこは、自分で簡単に作った物をあげるようにする。 ・⑤⑥だれのたこが一番あがったかを友だち同士で確認し合うことで、達成感をもたせる。
(2)調理をしよう	
◎かかわりあいの基礎―他者の話への注目・理解・応答　○調理―調理の手順	
・手づくりケーキをつくる。	・①②調理の手順を説明するときは、材料や調理器具など、具体物を見せることで見通しがもてるようにする。 ・②⑤⑥調理に際しては、実際の教師の示範を見て取り組みやすいようにする。
3　作品展に向けて作品を作ろう　　時数（5）	
(1)伸びゆく子どもたちの作品展の作品づくり	
●道具の使い方―名称・知識、扱い方・危険防止、片付け・保管　☆作品制作―表現	
・いろいろな材料を使って絵を描く。	・①②③⑥試作品を呈示して見通しをもたせたり、材料の特性や感触を十分楽しんだりしながら制作できるようにする。 ・④折り紙の色や配色は自由に選べるようにする。 ・⑤⑥できあがった作品を鑑賞し合い、友だちの作品も意識できるように促す。
4　もうすぐ冬休み　　時数（2）	
(1)２学期の学習の振り返り	
○日程・予定―年月日・曜日、予定　●約束ときまり―きまり	
・アルバム整理をする。	・②写真を準備し、２学期の学習の学習内容が視覚的に分かりやすいように工夫する。 ・①⑥自分の写っている写真を、自分でアルバムに整理できるように、事前に日付順に並べたり個別に分けたりするなどの準備を行っておく。 ・④呈示したアルバムから、好みのものを選べるようにする。 ・⑤アルバムに写真を上手に整理できたか見せ合い、お互いに賞賛できるようにする。
(2)冬休みに向けて	
○日程・予定―年月日・曜日、予定　整理整とん―位置・場所の把握　掃除―用具の種類・使い方 ●約束ときまり―きまり	
・日程、決まり等の確認する。 ・教室の掃除をする。	・②③学校に来る日と来ない日が分かるように、カレンダー等を使いながら説明する。 ・②冬休み後の学校の予定を伝え、始業式が楽しく迎えられるようにする。 ・③⑥冬休みや正月をすっきりとした気持ちで迎えることができるように、全員で協力をして掃除をさせる。

◎…かかわる力　○…生活する力　●…働く力　☆…楽しむ力

① 興味・関心　② 見通し、分かりやすさ　③ 目的意識・課題意識　④ 自己選択・自己決定　⑤ 自己評価　⑥ 満足感・達成感

(2) 研究授業における授業内容（学習指導案より抜粋　平成22年11月30日実施）

・本時の題材　　「お楽しみ会をしよう　―クリスマスリースを作ろう―」

・本時の目標

目　　標	生活単元学習で育む力（指導項目）
・写真カードを見たり、教師の質問に答えたりすることで制作手順を理解し、活動に見通しをもって取り組むことができる。	◎（かかわりあいの基礎） ○（日程・予定）
・リースに付けるかざりを選ぶことができる。	☆（作品制作）
・楽しく制作活動に取り組むことができる。	☆（作品制作） ●（道具の使い方）

◎かかわる力　○生活する力　●働く力　☆楽しむ力

・個人の実態、目標、評価

氏　名	実　　態	目　　標	個々に応じた指導の手立て	評価
○・○（男）	・発想が豊かで、制作活動では自分なりに工夫して楽しむことができる。 ・教師の話や説明が長く続くと、集中して聞いていないことがある。	・教師の助言を聞いたり、友だちの作品づくりの様子を見たりして参考にすることができる。 ・制作手順の説明について、教師が呈示する写真カードをよく見て聞くことができる。	・リースに付けるかざりを選ぶときは、色合いや付ける場所をよく考えるように言葉かけをする。 ・ときどき友だちの作品づくりの様子にも目を向けるように言葉かけをして促す。 ・教師の説明に注目するように、質問をして確認をしながら進めていく。正しく答えられたら大いに賞賛する。	

・展開

学習活動（指導項目―指導事項）	指導の手立て・留意点
1　前時の学習を振り返る。 ○日程･予定―予定	
(1) 合同お楽しみ会の日時や内容を確認する。 (2) 模造紙に描かれたクリスマスツリーを呈示し、かざりを作ることを知る。	・①カレンダーや写真を呈示し、視覚的に確認できるよう工夫する。 ・模造紙に注目するように促す。 ・①②模造紙に描かれたクリスマスツリーにかざりを付けることを説明し、活動内容に興味がもてるようにする。
2　クリスマスリースを作る。 ◎かかわりあいの基礎―他者の話への注目･理解･応答　●道具の使い方―扱い方･危険防止　☆作品制作―表現､材料･用具	
(1) 作り方の説明を聞く。	・説明する教師に注目するように促す。 ・②活動に見通しをもつことができるように、活動の手順表を写真カードで呈示する。

(2)机を向き合わせる形で設定する。	・③友だち同士で活動の様子が見られるようにするため、机を移動するように促す。
(3)クリスマスリースの本体を受け取る。	・あらかじめ段ボールと色画用紙で作られたクリスマスリースを児童に一個ずつ配る。
(4)リースにひもを通す。	・②リースにあらかじめ開けておいた穴に、順番に赤いひもを通すように促す。
(5)３種類のリースに付けるかざりの中から、自分が付けたいかざりを選択してリースに付けていく。	・④児童が興味を示しやすい素材やパーツを３種類用意し、選ぶ機会を設ける。 ・④児童が選んだものを尊重し、実態に応じて支援を行う。 ・③３種類のかざりをどこにはったらよいのかを考えながらはるように言葉かけをする。 ・②友だちの活動にも注目するように言葉かけで促す。 ・②タイムタイマーで、活動時間を呈示する。

３　クリスマスリースを完成させる。

◎自己の理解と対処―自己に関することの伝達　かかわりあいの基礎―他者の話への注目・理解・応答　☆作品制作―表現、材料・用具、鑑賞

(1)ひものついた丸い形の画用紙を受け取り、画用紙に自分の顔、または好きな動物、模様を描き、クレヨンで色を塗る。	・①④「自分の顔」または「好きな動物」「模様」の中から描きたい絵を描くように絵カードを見せながら説明する。 ・クレヨンで塗るときは、机が汚れないように古新聞を敷いて行うようにする。
(2)画用紙をリースに付ける。	・描き終えたら、あらかじめ画用紙に付いていたひもをリースに通す。
(3)座席を元に戻す。	・座席を最初のように戻すように言葉かけをする。
(4)模造紙に描かれたクリスマスツリーに、自分が作ったリースをはる。	・⑤⑥仕上がった作品を一人ずつ前へ出て発表してから、ツリーにはるように促す。がんばったこと、工夫したことを教師の方でも確認し、友だちの前で賞賛する。 ・①友だちの発表をよく聞いて、拍手をするように促す。 ・②はる部分はあらかじめ決めておき、ツリーに星印を付けておく。 ・⑥全員がツリーにはり終えたら、改めてツリーを注目するように促し、仕上げたかざりが付いたことをもう一度賞賛する。

４　次時の予定を知る。

○日程・予定―予定

(1)もう一つのかざりを作ることを知る。	・①②ツリーに星印が余っていることに注目させ、もう一つかざりを作ることを知らせ、次回に期待をもつことができるように配慮する。

◎…かかわる力　○…生活する力　●…働く力　☆…楽しむ力

① 興味・関心　② 見通し、分かりやすさ　③ 目的意識・課題意識　④ 自己選択・自己決定　⑤ 自己評価　⑥ 満足感・達成感

(3) 実施した研究授業の授業研究会での意見（一部）

今回の授業研究会では、授業づくりの視点との関連から、授業者から、自己評価や、満足感・達成感に関する質問があがり、これらのことを中心に小グループで協議し合い、意見を共有した。

○授業者より

・四つの力の指導内容を踏まえて学習活動を計画し展開できた。
・主体性を発揮できるように、自分で使いたい部品を選ばせる学習設定をした。
・帰りの会でも、リースが作れたことを取り上げほめるようにした。
・今回の授業では、できた作品を発表しツリーの絵を飾ることで達成感が得られるようにと考えた。特に言葉の出ない児童に対し、自己評価の機会の設定や、本人の満足感・達成感をどう把握し、どう高めていったらよいのか意見がほしい。

○参観者より（特に自己評価、満足感・達成感に関して）

・児童によっては、一まとまりの活動として理解することが難しい。一つの行動ができたら、その都度できたねとはっきり認めてほめ、それを積み重ねていく。
・飾れたら音楽が鳴ると満足感が高められるのでは？
・小学部低学年段階では、人への関心を高めていく関わりを大切にしつつ、表情や口調などからほめられている雰囲気を出し、ほめられてよかったと十分に感じられるようにする。また、児童同士ほめあう機会をつくる。（本時では、ツリーへの飾り付けの場面や帰りの会などで設定できた。）
・日々の関わりの中で、児童の喜ぶ姿、喜んでいるときのしぐさや表情を把握しておく。
・活動の様子をビデオに撮り、振り返りのときに映像を流し、自分の取組や友だちの取組が評価し合えるようにしている学級、学部もある。
・授業づくりの視点として自己評価、満足感・達成感を考えたとき、これらのことは、興味・関心、分かりやすさ、自己選択・自己決定、目的意識といった他の授業づくりの視点を意識した手立てを工夫していくことで、自己評価をしやすい場面をつくれたり、満足感・達成感を高めたりすることにつながる。
・準備活動や片付け活動をまんべんなく児童に取り組ませている。また、かざりや色鉛筆など、児童が選択する場面を意図的に設定している。

(4) 研究授業で実施した単元の単元評価票

<table>
<tr><td>単元名</td><td colspan="2">冬の生活</td><td>学部
学年学級</td><td>小学部
２年１組</td><td>期間</td><td>11月～１月（15）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">単元指導計画・指導内容の取扱いに関して</td><td>①単元設定の妥当性</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4" rowspan="3">特記事項

（※福笑い･ケーキづくり･合同お楽しみ会のかざりづくり･伸びゆく子どもたちの作品展の作品づくり）</td></tr>
<tr><td>②単元目標設定の妥当性</td><td>Ⓐ B C D</td></tr>
<tr><td>③生きる力を育む観点に立った学習活動の設定や授業構成の妥当性</td><td>Ⓐ B C D</td></tr>
<tr><td rowspan="7">指導の手立ての有効性に関して</td><td colspan="2">児童生徒の活動状況からの有効性の評価
（単元全体を通して）</td><td colspan="4">今後の指導の手立ての充実に向けて
※よかった手立ても記入</td></tr>
<tr><td>**① 興味・関心**
・授業展開
・教材・教具</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">〈福笑い、ケーキづくり〉児童が楽しく活動できる遊びや、調理などを取り入れることで、興味や関心を高めることができた。</td></tr>
<tr><td>**② 見通し、分かりやすさ**
・授業の見通し
・活動の分かりやすさ</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">〈かざりづくり、作品づくり〉制作手順を写真カードを使って説明したり、具体物を見せたりしながら児童の前で見本を示すことで、授業の見通しをもつことができた。</td></tr>
<tr><td>**③ 目的意識・課題意識**
・目的理解や問題解決への意識</td><td>A Ⓑ C D</td><td colspan="4">〈かざりづくり〉事前に日程や目的、活動内容を説明した後で、合同お楽しみ会のかざりづくりをしたので、目的意識をもつことができた。</td></tr>
<tr><td>**④ 自己選択・自己決定**
・選択･決定する場面設定
・選択･決定するしやすさ</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">〈かざりづくり、作品づくり〉かざりづくりでは、３種類のリースに付けるかざりを用意し、児童が好きなかざりを選択することができた。</td></tr>
<tr><td>**⑤ 自己評価**
・振り返る場面設定
・振り返りのしやすさ</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">〈かざりづくり、作品づくり〉仕上がった作品を持って、一人ずつ前へ出て「がんばったこと」を発表したことで、自分の作品を振り返ることができた。</td></tr>
<tr><td>**⑥ 満足感・達成感**
・楽しさ､達成感のもちやすさ
・教師や友だちと共有できる設定</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">〈かざりづくり、作品づくり〉仕上がった作品を発表し、全員で拍手をすることで、作品を完成させた達成感を児童同士で共有することができた。</td></tr>
<tr><td colspan="6">＜児童生徒の活動状況に関する特記事項＞
・児童が活動に取り組みやすいように、児童の実態に応じた教材・教具の工夫は継続して必要かと思われる。</td></tr>
<tr><td colspan="7">＜今後の単元の授業改善に向けて＞
・授業準備等についての共通理解が図れるよう、事前に担当者での打ち合わせが継続できるとよい。
・今後も、活動に取り組んでいる児童の表情や様子を参考に、児童が興味・関心をもって取り組める題材を考えていきたい。</td></tr>
</table>

(5) 指導の手立て工夫例整理表

単元名	冬の生活	題材名	クリスマスリースを作ろう	所属	小学部２年１組
生きる力を育む指導項目・事項	◎かかわりあいの基礎ー他者の話への注目・理解・応答 ○日程・予定ー予定 ●道具の使い方ー扱い方・危険防止 ☆作品制作ー表現、鑑賞				
主体性・自主性を育む指導の手立てに関して	主体性自主性を育む観点（授業づくりの視点）	よかった点		写真等	
	①興味・関心 ・授業展開 ・教材・教具	・昨年度の合同お楽しみ会の写真や、前時に児童が色を塗ったツリーを見せることで、活動内容に興味がもてるようにしたこと。 ※写真１		 写真１ 模造紙のツリー	
	③見通し、分かりやすさ ・授業の見通し ・活動の分かりやすさ	・制作手順を、写真カードを使って説明したこと。 ※写真２ ・タイムタイマーで活動時間を呈示したこと。			
	④目的意識・課題意識 ・目的の理解や問題解決への意識	・模造紙のツリーに星印を付け、かざりが完成したら星印の下にはるようにしたことで、活動の目的を理解することができた。		合同お楽しみ会で使用するツリーに、完成したかざりをはるようにしたことで、制作に対する意欲を高めることができました。	
	⑤自己選択・自己決定 ・選択・決定する場面設定 ・選択・決定するしやすさ	・３種類のリースに付けるかざりを用意し、選ぶ機会を設けたこと。		 写真２　制作手順表	
	⑤自己評価 ・振り返る場面設定 ・振り返りのしやすさ	・仕上がった作品を一人ずつ前へ出て発表してから、ツリーにはるように促したことで、自分の作品づくりを振り返ることができた。			
	⑥満足感・達成感 ・楽しさ、達成感のもちやすさ ・教師や友だちと共有できる設定	・全員がツリーにリースをはり終えたら、改めてツリーを注目するように促し、仕上げたかざりが付いたことを賞賛することで、達成感をもてるようにした。		制作手順を、写真を呈示しながら説明したことで、見通しをもつことができました。	

（その他・コメント）

・導入で合同お楽しみ会の写真と模造紙のツリーを呈示し、ツリーの星印の部分に作成したリースをはることについて説明したことで、児童の制作活動における意欲を十分に高めることができました。

・材料の配付や回収などを一人一人の児童に役割として与えると、積極的に手伝いに取り組む姿勢が見られました。

・仕上がったリースを持って前に出てがんばったことを発表し、ツリーにはったときに児童の満足そうな表情がうかがえました。友だちの発表にも拍手をして賞賛するように促したことで、お互いに達成感や満足感を味わうことができました。

― 小学部高学年（第6学年）における実践から ―

(1) 研究授業（平成22年９月27日実施）で実施した授業に関する単元指導計画

小学部５・６年

単元名	修学旅行に行こう	指導期間	９月～10月　　総時数（30）
単元設定の理由	小学部５・６年生は、教師からの多くの支援を要する児童から、事前に学習することで見通しをもって一人で行動することができる児童まで様々な実態の児童が在籍している。これまでの校外学習等を通して、地域に興味を示して積極的に行動したり、校内、校外宿泊学習の経験から、身の回りのことは自分で行おうとする意識が高まってきている。そこで、小学部のまとめでもある修学旅行に関する学習において、興味・関心の高い目的地を設定することで積極的な行動をより促したり、入浴学習や荷物調べを通して身の回りのことに自分で取り組む姿勢をさらに高めたりしていきたいと考える。また、居住地域外の公共施設の利用の仕方を知ったり、長時間の集団行動を通して仲間意識を高めたりすることにも留意して設定していきたいと考える。		
単元目標	・教師や友だちと一緒に、楽しく活動することができる。　◎☆ ・身の回りのことを自分で行うことができる。　◎○ ・見学地の情報を知り、教師や友だちと一緒に簡単な計画を立てることができる。　◎○● ・日程に見通しをもち、自主的・積極的に行動することができる。　◎○		
主な指導項目	◎：自己の理解と対処　かかわりあいの基礎　場に即した応答　集団参加 ○：健康管理　整理整とん　金銭の扱い　買い物　情報機器の利用　日程･予定　交通機関の利用　公共施設の利用　社会の仕組み ●：役割　約束ときまり　仕事の知識 ☆：遊び　作品制作　鑑賞･見学　季節と自然		

単元構成及び学習活動（主な指導項目―指導事項）	指導の手立て・留意点
1　修学旅行って何？　時数（２）	
(1) 日程確認	
◎かかわりあいの基礎―他者の話への注目･理解･応答　○日程予定―予定 ●仕事の知識―仕事への興味･関心　☆鑑賞･見学―映像　季節と自然―季節の行事	
・日時や行き先を知る。 ・日程や主な活動内容を知る。 ・持ち物や部屋割を知る。	・①②日程や見学場所などに興味がもてるよう、写真、映像で分かりやすく示したり、情報機器を自分で操作する場面をつくったりする。 ・③④いくつかの選択肢を準備することで、自分で行きたい場所やがんばることを発表できるようにする。
(2) 約束・目標確認	
◎自己の理解と対処―自己に関することの伝達　●生活設計･将来設計―自己の理解と身近な生活目標	
・約束事を確認する。 ・目標を立てる。	・⑤⑥映像で何度か確認することで、約束や目標をみんなで確認し合えるようにする。
2　行き方・泊まり方を知ろう　時数(12)	
(1) しおり作り	
○日程･予定―予定　交通機関の利用―交通手段　社会の仕組み―社会の様子	
・活動内容を確認しながらしおりを作る。 ・しおりから活動内容を再確認する。	・①②大きさや記述内容など、児童の実態に合わせたしおりを準備する。 ・⑤⑥しおり作成後は、各学習場面で活用することで、日程や行動を確認できるようにする。
※研究授業の実施	
(2) 荷物調べ	
◎かかわりあいの基礎―他者の話への注目･理解･応答　○整理整とん―分類､位置･場所の把握	
・チェック表を使って荷物を調べる。 ・持ち物を分類したり整理したりする。	・①②③⑥チェック表を見ながら荷物を調べたり、活動ごとに必要な荷物を小分けにしたりすることで､自分で荷物を管理する意識を高める。

(3) 入浴学習

〇健康管理―清潔、身なり　日程・予定―日程に沿った行動　●約束ときまり―きまり、マナー

・入浴に必要な物を自分で準備する。 ・自分で洗髪したり体を洗ったりする。 ・入浴後の身支度、後始末をする。	・②③⑥入浴学習では、事前に約束事を十分に確認し、周囲に気を配れるようにする。 ・③⑤入浴の様子を友だちと比較することで、自分の改善すべき点に気付けるようにする。

(4) 買い物学習

〇金銭の扱い―お金の価値・種類、金額計算・支払い、保管・貯蓄　買い物―計画・行動、商品選択、店員への支払い　社会の仕組み―いろいろな店　☆遊び―遊び・ゲーム・スポーツ

・おみやげの種類を知る。 ・自分でほしいものを選択する。 ・模擬店舗や商店で買い物をする。	・①②③④⑥どのようなおみやげがあるか写真等で呈示し、自分で買いたい品物やその個数を決めることができるようにする。 ・①③⑥近隣の商店で買い物学習を行うことで、お金や財布の管理、支払いの練習が事前にできるようにする。

3　みんなで決めよう　　時数（6）

(1) グループ決め

◎かかわりあいの基礎―楽しさの共有　●役割―役割の種類や分担

・自分がどんなことをしたいか発表する。 ・行動別のグループに分かれる。 ・班長を決める。	・③④⑥できるだけ児童同士の話し合いで決められるように、どのような係活動があるか具体的に呈示したり、グループ分けの選択肢を呈示したりする。

(2) 見学場所決め

◎かかわりあいの基礎―楽しさの共有　集団参加―協力　〇情報機器の利用―情報機器の操作　公共施設の利用―施設の働き　●生活設計・将来設計―自己の理解と身近な生活目標

・アトラクションを調べる。 （インターネット） ・見学ルートを決める。 ・ルートマップを作る。	・①②④⑥パンフレットや情報機器を操作しながら実際の映像を見ることで、見学場所のイメージがつかめるようにする。 ・③④⑤⑥グループごとに何度か発表し合い、自分のグループと比較することで、より具体的な計画が立てられるようにする。

4　出かけよう（当日）　**※別計画**

・児童の掌握、安全面には十分配慮する。

5　思い出そう　　時数（10）

(1) 当日の振り返り

◎場に即した応答―場に応じたあいさつ・報告・応答　☆鑑賞・見学―映像

・写真や映像で当日を思い出す。 ・目標の達成度を確認・発表する。	・①②⑤⑥当日を思い出しやすいよう、自分たちの写真や映像を見ながら振り返り学習を行う。 ・③④⑤⑥映像や写真を見たり友だちから意見を聞いたりしながら、事前に立てた約束や目標の達成度を確認する。

(2) 思い出の作品制作

●道具の使い方―扱い方・危険防止　☆作品制作―表現

・楽しかった場面を絵画等で表現する。 ・思い出の写真を掲示する。	・①④⑤⑥自分たちで写真を掲示したり、絵画等で表現したりすることで、活動内容や楽しかったことを思い出せるようにする。

◎…かかわる力　〇…生活する力　●…働く力　☆…楽しむ力

① 興味・関心　② 見通し、分かりやすさ　③ 目的意識・課題意識　④ 自己選択・自己決定　⑤ 自己評価　⑥ 満足感・達成感

(2) 研究授業における授業内容（学習指導案より抜粋　平成22年９月27日実施）

・本時の題材　「行き方・泊まり方を知ろう　～荷物調べ～」

・本時の目標

目　　標	生活単元学習で育む力（主な指導項目）
・持ち物表を見ながら、持ってきた荷物を一つずつ確認して、チェックすることができる。	◎（自己の理解と対処、かかわりあいの基礎、場に即した応答） ○（整理整とん）
・荷物調べを行うことにより、修学旅行に必要な持ち物について理解することができる。	◎（かかわりあいの基礎） ○（日程・予定）

◎かかわる力　○生活する力　●働く力　☆楽しむ力

・個人の実態、目標、評価

氏　名	実　態	目　標	個々に応じた指導の手立て	評価
○・○（男）	・普段から自分の持ち物をよく把握しているが、呈示されたものがなかったり、違っていたりすると不安な様子が見られる。 ・普段の学校生活に必要な物だけでなく、行事のときに必要な物を予想して、いくつか答えることができる。	・持ち物表を見ながら、一つずつ確実に持ち物を確認することができる。 ・持ち物調べにより、何を持って行くのか、思い付くものを発表することができる。	・支援の要請があるまで待つようにする。友だちの様子が気になり、活動の速さを競うときには、一つ一つ確実に行うように促す。 ・思い付かないときには、持ち物調べを思い出したり、持ち物表を見直したりするように促す。	

・展開

学習活動（指導項目―指導事項）	指導の手立て・留意点
1　本時の活動内容を知る。 ◎かかわりあいの基礎―他者の話への注目･理解･応答　○日程･予定―日程に沿った行動	
(1) はじまりのあいさつをする。 (2) しおりを見ながら、修学旅行の活動全体について確認する。	・②③荷物やバッグの置き場所をテープで示したセラピーマットを一人一人に準備し、その上で活動することを伝える。 ・①②日程の復習を兼ねて、しおりを手がかりに修学旅行の活動について確認できるようにする。しおりの言葉や写真に注目するように促す。 ・①②③宿泊するときにはどんな持ち物が必要なのかをしおりを見ながら予想し、学習への動機付けをする。
2　事前に持ってきた荷物を確認しながら、持ち物をチェックする。 ◎自己の理解と対処―支援の要請　かかわりあいの基礎―他者の話への注目･理解･応答 場に即した応答―場に応じたあいさつ･報告･応答　○整理整とん―分類､位置･場所の把握	
(1) 荷物を確認して、持ち物カードにチェックする。荷物に名前が書いてあるかも確かめる。	・①②③持ち物カードを見て、必要なものを確認する。持ち物の名称と、どんなときに必要なのかを、児童の発言を引き出しながら進めるようにする。

(2)袋に確認した荷物を入れる。 (3)シールを袋にはる。 	・②③④一つずつ持ち物を取り出して確認をし、持ち物カードに印をつける。名前が書いていない持ち物には、持ち物カードにシールをはって分かるようにしておく。（後日記入） ・③④使う場面が一緒のものを、袋に入れる。 ・④⑥使うときにすぐに取り出すことができるように、使う場面と自分の名前が書いてあるシールを袋にはる。（シールには、事前に書いておく。） ・②⑥一人で活動を行うことができる児童は、教師に報告して、次の活動に進む。今、どの児童がどの活動をしているのか分かるように、ホワイトボードの表に目印を付けておく。 ・③⑥活動が早く終わった児童は、友だちの活動に協力をするように促す。その際、同性同士で協力するように配慮する。 ・③④⑥質問を教師だけが受けるのではなく、児童同士でも話し合ったり確認し合ったりできるように配慮をする。
3　本時の学習を振り返る。 **◎自己の理解と対処―自己に関することの伝達　かかわりあいの基礎―他者の話への注目・理解・応答　○日程・予定―日程に沿った行動**	
(1)荷物を調べて分けることができたか、また、不足していたものがあったかを確認する。 (2)次時の予告を聞く。 (3)終わりのあいさつをする。	・③⑤⑥荷物を分けて入れることができたか、不足していたものがあったか等、児童の意見、感想を引き出す。 ・①②③荷物が必要な場面を意識させるとともに、目的地の楽しさも伝え、今後の学習の意欲を高められるようにする。 ・もし不足していたものがあっても、それは悪いことではなく、修学旅行までに持ってくればいいことを話す。

◎…かかわる力　○…生活する力　●…働く力　☆…楽しむ力（右詰めで記入）

① 興味・関心　② 見通し、分かりやすさ　③ 目的意識・課題意識　④ 自己選択・自己決定　⑤ 自己評価　⑥ 満足感・達成感

(3)実施した研究授業の授業研究会での意見（一部）

○授業者より

・教師は先回りせず、児童からの報告や質問があってから極力対応するようにした。
・荷物のチェックのみでなく、入浴に必要な物を袋にまとめ教師からラベルをもらい袋にはる活動を設定した。終わったことの自己判断や自分からの報告、教師からの賞賛の機会になった。
・一人一人にセラピーマットを用意するとともに、そのセラピーマットにテープで目印を付け、荷物やバッグの置き場所を分かりやすくした。

○参観者より

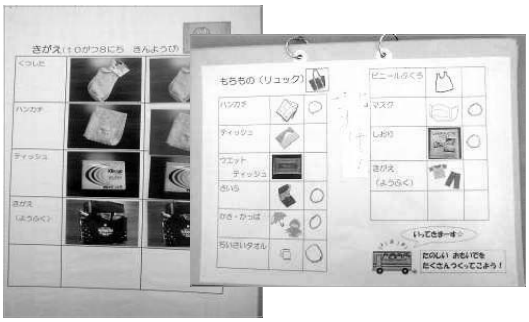
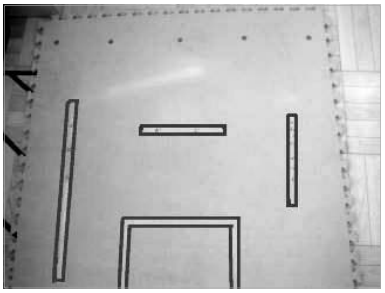
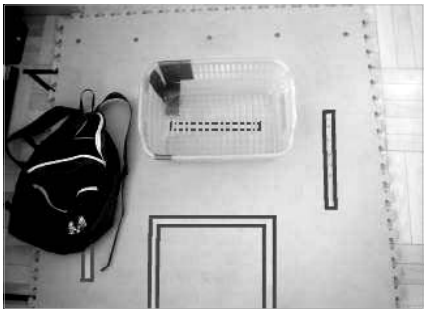
・個人のマットが効果的。
・大きな日程表や個人用のしおりから、どの場面でなぜ必要なのかについて分かりやすく示せていた。
・教師との応答や報告の仕方、態度がよかった。日頃の指導の成果が表れている。
・授業の進行、しおりの配付など、授業の中での役割活動を意図的に組み込んでいけるとよい。
・バッグを教師が運んだり片付けたりしていたが、児童が自分で行えるようにしたい。時間がかかっても、部分でなく、一連のまとまりある行動が自分でできるようにすることが、般化につながる。

(4) 研究授業で実施した単元の単元評価票

<table>
<tr><td>単元名</td><td colspan="2">修学旅行に行こう</td><td>学部
学年学級</td><td>小学部
５・６年</td><td>期間</td><td>９月～10月（30）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">単元指導計画・指導内容の取扱いに関して</td><td>①単元設定の妥当性</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4" rowspan="3">特記事項
・生活する力の「情報機器の利用」は大変有効であった。</td></tr>
<tr><td>②単元目標設定の妥当性</td><td>Ⓐ B C D</td></tr>
<tr><td>③生きる力を育む観点に立った学習活動の設定や授業構成の妥当性</td><td>A Ⓑ C D</td></tr>
<tr><td rowspan="7">指導の手立ての有効性に関して</td><td colspan="2">児童生徒の活動状況からの有効性の評価
（単元全体を通して）</td><td colspan="4">今後の指導の手立ての充実に向けて
※よかった手立ても記入</td></tr>
<tr><td>**① 興味・関心**
・授業展開
・教材・教具</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">・パワーポイント教材やパソコン等を使用し、実際の映像を見たことで興味を示していた。
・買い物学習やバイキングの練習など、実物を使って模擬体験ができた。
・日程に沿ったしおりの作成や、実態に応じたチェック表が有効であった。</td></tr>
<tr><td>**② 見通し、分かりやすさ**
・授業の見通し
・活動の分かりやすさ</td><td>A Ⓑ C D</td><td colspan="4">・具体的な学習内容が多かったので、見通しをもって学習に取り組むことができていた。
・買い物学習やバイキングの模擬体験では、繰り返し体験したり確認したりしたことで理解が深まった。</td></tr>
<tr><td>**③ 目的意識・課題意識**
・目的理解や問題解決への意識</td><td>A Ⓑ C D</td><td colspan="4">・活動ごとの目標や約束を決めたことで、目的意識をもって事前学習や当日に臨むことができた。
・グループ分けをしたことにより、役割を意識して活動することができていた。</td></tr>
<tr><td>**④ 自己選択・自己決定**
・選択･決定する場面設定
・選択･決定するしやすさ</td><td>A Ⓑ C D</td><td colspan="4">・様々な活動において、自分たちで決める内容が含まれていてよかった。
・情報機器の使用により、乗りたいアトラクションや食べたいもの等を選択しやすかった。</td></tr>
<tr><td>**⑤ 自己評価**
・振り返る場面設定
・振り返りのしやすさ</td><td>A Ⓑ C D</td><td colspan="4">・事前に立てた目標に合わせ、自分の行動を振り返りやすかった。
・写真を見ながら、そのときの様子を友だち同士で話し合う場面が見られた。</td></tr>
<tr><td>**⑥ 満足感・達成感**
・楽しさ､達成感のもちやすさ
・教師や友だちと共有できる設定</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">・グループ活動を通して楽しさを共有できた。
・自分たちで撮った写真を見ながら、思い出話が盛り上がった。</td></tr>
<tr><td colspan="7">＜児童生徒の活動状況に関する特記事項＞
・情報機器の利用が有効であった。事前学習の幅が広がり、児童の興味・関心も高かった。</td></tr>
<tr><td colspan="8">＜今後の単元の授業改善に向けて＞
・５・６年合同で事前学習を行うことが多かったので、事後学習の思い出づくりなども合同で設定してもよかった。
・パソコン操作の難しい児童への対応も考えておく必要がある。</td></tr>
</table>

(5) 指導の手立て工夫例整理表

単元名	修学旅行に行こう	題材名	荷物調べをしよう	所属	小学部６年１・２組
生きる力を育む指導項目・事項	**◎自己の理解と対処**ー支援の要請　**かかわりあいの基礎**ー他者の話への注目・理解・応答　**場に即した応答**ー場に応じたあいさつ・報告・応答 **〇整理整とん**ー分類　**整理整とん**ー位置・場所の把握 **〇日程・予定**ー日程に沿った行動				

主体性・自主性を育む指導の手立てに関して	主体性自主性を育む観点（授業づくりの視点）	よかった点	写真等
	①興味・関心 ・授業展開 ・教材・教具	・しおりを見ながら日程について確認した。 ・分かりやすいように絵や写真を多く入れた。	 写真１　荷物のチェック表 児童の実態に応じて、イラストや実際に持ってきた持ち物の写真を使ってチェック表を作り、確認しました。
	⑥見通し、分かりやすさ ・授業の見通し ・活動の分かりやすさ	・荷物のチェック表を見ながら、荷物を調べた。 ・イラストや写真と実物をマッチングしながら調べることができた。 **※写真１**	
	⑦目的意識・課題意識 ・目的の理解や問題解決への意識	・一つずつ持ち物を取り出して確認し、チェック表にシールを貼ったり〇を付けたりして調べることができた。	
	⑧自己選択・自己決定 ・選択・決定する場面設定 ・選択・決定するしやすさ	・必要な物ごとに小分けにしてビニール袋に入れて、セラピーマットの上に並べることができた。 **※写真２**	  写真２　荷物を置くセラピーマット 個々に応じて、かばんを置く位置や、小分けした袋を置く位置を記したセラピーマットの上で活動を行いました。机上よりも広く、荷物が落ちることもありませんでした。使いやすかったです！！
	⑤自己評価 ・振り返る場面設定 ・振り返りのしやすさ	・チェック表を見ながら、そろっている物と足りない物を知ることができた。	
	⑥満足感・達成感 ・楽しさ、達成感のもちやすさ ・教師や友だちと共有できる設定	・足りない物をそろえることで、「修学旅行に行くぞ！」という前向きな気持ちをもつことができた。	

― 中学部（第2学年）における実践から ―

(1) 研究授業（平成22年６月29日実施）で実施した授業に関する単元指導計画

中学部２年１・２組

単元名	校外学習に行こう／校内宿泊学習	指導期間	６月～７月　　総時数（24）
単元設定の理由	本学級は、校外学習などの行事が大好きな生徒が多い。また、友だち同士の関わりが活発で、中学部１年生のときから相談して活動したり決めたりする活動を教師が間に入りながら行ってきた。一方、日常での経験が少ない生徒が多く、公共機関の利用や生活の基本的なスキルが身に付いていない様子が見られる。 そこで、大好きな活動である校外学習や校内宿泊学習において、生活経験の拡大を図り、日常生活における基本的なスキルを見直していく必要があると考えた。そして、目的のために何かを調べたり、支援ツールなどの情報を活用し、生徒同士が協力し、見通しをもって主体的な学習を展開していきたいと考え、本単元を設定した。		
単元目標	・支援ツールを活用し、生徒同士が協力して主体的に活動することができる。　◎○●☆ ・インターネットやパンフレットなどを使用し、調べ学習をすることができる。　◎○●☆ ・ルールやきまりを守り、公共交通機関を利用することができる。　○● ・家庭生活の基本を見直し、友だちと協力して学校に宿泊することができる。　◎○●		
主な指導項目	◎：自己の理解と対処　かかわりあいの基礎　集団参加 ○：金銭の扱い　買い物　情報機器の利用　日程･予定　交通機関の利用　社会の仕組み ●：役割　約束ときまり ☆：鑑賞･見学		

単元構成及び学習活動（主な指導項目―指導事項）	指導の手立て・留意点
1　日程表をつくろう　時数（３） ◎自己の理解と対処―支援の要請　かかわりあいの基礎―楽しさの共有　○日程･予定―予定 (1) 日程の確認　(2) しおりづくり (3) 日程表づくり	・①②③支援ツールの一つとなるしおりを完成し､流れを理解できるように映像等も利用する。
2　買い物・調理をしよう　時数（６） (1) 買う物を考えよう　買い物学習をしよう ◎集団参加―集団への参加と役割　○金銭の扱い―金額計算･支払い　買い物―計画･行動、商品選択､店員への支払い　社会の仕組み―交通ルール　●約束ときまり―マナー	・①④作りたい献立の意見を聞き、意欲を高めるとともに、その料理を作るにはどんな材料が必要かを調べたり話し合ったりできるようにする。 ・①②③④⑥手順書を用い、生徒が協力して自主的に活動できるよう促す。
(2) 調理実習をしよう ◎自己の理解と対処―支援の要請、○調理―献立･材料の選択､調理の手順､器具の使い方 ●役割―役割活動	・①②③手順書を準備し、作る物の写真を呈示して明確にし、手がかりを活用した活動を進められるようにする。

3　調べ学習　時数（２） (1)昼食場所を決めよう ◎かかわりあいの基礎―他者の話への注目･理解･応答　集団参加―集団への参加と役割 ○情報機器の利用―情報機器の操作　●役割―役割活動　☆鑑賞･見学―映像	・①③④インターネットなどの情報の活用の仕方を視覚的に理解できるようにする。 ・実態に応じて２グループに分けて活動できるようにする。
※研究授業の実施	
4　公共交通機関の利用　時数（２） (1)電車に乗ろう ◎かかわりあいの基礎―楽しさの共有　○交通機関の利用―交通手段、利用方法、安全･マナー ●約束ときまり―マナー　☆鑑賞･見学―映像	・②③④映像教材を用いたり、切符の購入を模擬体験したりして、なるべく実際の活動に近い形で行い、生かせるようにする。
5　宇都宮に行こう、学校に泊まろう（当日） ***※別計画***　時数（10）	・②③⑥手順書などの支援ツールを使うことで教師の支援を減らし、生徒が協力して主体的に活動できるようにする ・②移動や買い物学習などの様々な活動において、友だち同士が協力できるよう、一緒に活動するペアやグループをその都度確認する。 ・⑥生徒が主体的に活動できたことを賞賛し、次へのステップについても触れ、学習への意欲を高める。
6　振り返ってみよう　時数（１） (1)校外学習や校内宿泊学習を振り返ろう ◎自己の理解と対処―自己に関することの伝達　かかわりあいの基礎―楽しさの共有 ☆鑑賞･見学―映像	・⑤⑥記録した映像や写真を振り返り、個人の目標の反省を行い、実生活につながるようにする。

◎…かかわる力　○…生活する力　●…働く力　☆…楽しむ力

① 興味･関心　② 見通し、分かりやすさ　③ 目的意識･課題意識　④ 自己選択･自己決定　⑤ 自己評価　⑥ 満足感･達成感

(2)研究授業における授業内容（学習指導案より抜粋　平成22年６月29日実施）

・本時の題材　「電車に乗ろう」

・本時の目標

目　　標	生活単元学習で育む力（指導項目）
・切符の買い方や校外学習に興味をもち、楽しみながら取り組むことができる。	◎（かかわりあいの基礎、集団参加） ○（日程･予定、交通機関の利用） ☆（鑑賞･見学）
・支援ツールを活用して、切符の買い方を理解し、購入することができる。	◎（自己の理解と対処、かかわりあいの基礎、場に即した応答、集団参加） ○（金銭の扱い、日程･予定、交通機関の利用） ☆（鑑賞･見学）

◎かかわる力　○生活する力　●働く力　☆楽しむ力

・個人の実態、目標、評価

氏　名	実　態	目　標	個々に応じた指導の手立て	評価
○・○（女）	・何事にも興味・関心を示し話をよく聞きながら学習に取り組むことができる。 ・正しく発音できる言葉も多いが、言葉が不明瞭なため、会話の成立が難しい場面が見られる。	・学習内容を理解し、意欲的に学習に取り組むことができる。 ・手順カードを利用し、一人で切符を買うことができる。	・活動手順を確認する際、発言を引き出せるような雰囲気をつくったり、言葉かけをしたりする。 ・手順カードの活用の仕方を支援し、主体的に切符を購入することができるようにする。 ・戸惑ったときは、手順カードを見るように促す。	

・展開

学習活動（指導項目―指導事項）	指導の手立て・留意点
1　本時の活動内容を知る。 **◎かかわりあいの基礎―他者の話しへの注目･理解･応答　○日程･予定―日程に沿った行動**	
(1)はじまりのあいさつをする。	・姿勢を正し、当番の生徒に注目を促す。 ・あいさつをすることで、学習の始まりを意識できるようにする。
(2)校外学習と校内宿泊学習の日程表を見ながら、活動の全体像を確認する。	・①②日程の復習を兼ねて、日程表を手がかりに校外学習と校内宿泊学習の全体像をとらえ、本時の学習内容を意識できるようにする。
(3)本時の活動内容を確認する。	・①②③電車を利用する目的を日程表を見ながら、電車に乗った後の活動を確認し、学習への動機付けをする。
2　電車の乗り方、切符の買い方を知り、模擬体験する。 **◎自己の理解と対処―自己の理解､支援の要請､自己に関することの伝達　かかわりあいの基礎―他者の話への注目･理解･応答､楽しさの共有　場に即した応答―場に応じたあいさつ･報告･応答　○金銭の扱い―金額計算･支払い　日程･予定―日程に沿った行動　交通機関の利用―利用方法　☆鑑賞･見学―映像**	
(1)映像教材を見る。	・①②③駅構内及び切符の購入方法を映像を見て確認する。途中で映像を止め、注目すべきポイントを伝えるようにする。
(2)写真カードで確認する。	・①②③映像資料の一部を写真カードにすることで理解が深められるようにする。カードを順番にめくり、活動の手順を、生徒の発言を引き出しながら確認していく。
(3)切符の買い方を実際に模擬体験する。	・②③④⑥全体に提示したカードを小さくしたものを手順カードとして生徒に渡し、カードを手がかりに生徒が主体的に、協力して切符を買う経験ができるようにする。切符を買えたときには大いに賞賛する。 ・切符を購入する窓口を２カ所設置し、スムーズに体験できるようにする。

(4)切符の買い方の模擬体験のビデオを見る。	・③④言葉の代わりになるカードを準備し、駅員に自分で伝える活動を取り入れる。 ・⑥教師の支援はできるだけ減らし、生徒同士の相談などのやりとりができるように配慮をする。 ・③どうしても分からない場合には、教師に支援を依頼したり質問をしたりするよう促す。 ・②③⑤模擬体験の場面をカメラで撮影しておき、数名の活動を見ながら、活動を振り返るようにする。よかった点や改善点など生徒の発言を引き出しながら進めていく。
3　本時の学習を振り返る。 **◎かかわりあいの基礎―他者の話への注目･理解･応答､楽しさの共有　集団参加―集団への参加と役割　○日程･予定―日程に沿った行動　交通機関の利用―利用方法**	
(1)切符の買い方を確認する。	・②③写真カードを使いながら確認し、当日もこのカードを手がかりに活動することを強調して伝える。
(2)校外学習・校内宿泊学習において切符を買った後の活動を確認する。	・①②③電車に乗った後、買い物をしたり、校内に宿泊したりする楽しさを日程表を見ながら伝え、今後の学習の意欲を高められるようにする。
(3)次時の予告をする。 (4)終わりのあいさつをする。	・当番の生徒に注目を促し、学習の終わりを意識できるようにする。

◎…かかわる力　○…生活する力　●…働く力　☆…楽しむ力（右詰めで記入）

① 興味･関心　② 見通し､分かりやすさ　③ 目的意識･課題意識　④ 自己選択･自己決定　⑤ 自己評価　⑥ 満足感･達成感

(3)実施した研究授業の授業研究会での意見（一部）

○授業者より

・導入やまとめの際に日程表等で全体像(校外学習・校内宿泊)を確認したので、活動のどの場面で切符を購入するのかおおむね意識できていた。
・映像による振り返りで、よい点、悪い点を発表し合えた。
・映像やカード等の視覚的支援により一人一人が参加できる活動になった。
・模擬体験のとき、駅員役で二人の教師が抜けたので、生徒への対応が不十分で、支援が必要な場面を見逃してしまうことがあった。
・駅員役の動きが難しかった。(実際の場面をもっと観察し、対応できるとよかった)
・切符購入手順カードの呈示の仕方にさらに工夫が必要。（枚数、必要なカードの呈示のしやすさ）
・全体での学習時の個別支援が不十分だった。支援に対する教師の共通理解が不足していた。

○参観者より

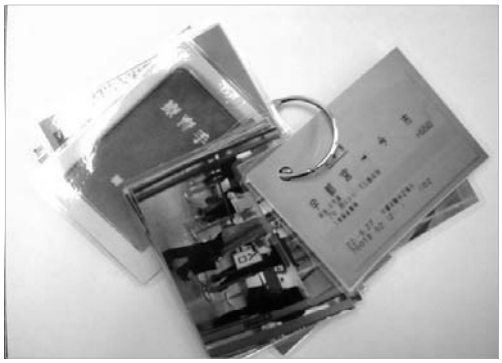
・指導内容を意識しすぎるあまり、あれもこれもになり活動の意図がぼやけてしまった面もある。
・生徒たちの反応のよさ、活発に発言する雰囲気を生かした指導展開ができていた。
・映像をふんだんに活用したことで、分かりやすさやイメージのしやすさにつながった。
・切符購入の場面を撮影し、そのビデオ視聴で振り返ったのは効果的であった。
・障害の重い生徒の主体性・自主性をどうとらえるか。
（学習活動の複線化を図り、実態に合った力を発揮できる場面をつくることも有効。）
・本人のレベルで選べる状況（日頃のかかわりの中で把握）をつくることが、主体性・自主性の発揮につながる。
・視覚教材（映像）のメリット（分かりやすい）やデメリット（静的・受動的）を考える。
・教師が動きすぎていないか。生徒が活動できる場面を増やせないか。

(4) 研究授業で実施した単元の単元評価票

<table>
<tr><td>単元名</td><td colspan="2">校外学習に行こう／校内宿泊学習</td><td>学部
学年学級</td><td>中学部
２年１・２組</td><td>期間</td><td>６～７月（24）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">単元指導計画・指導内容の取扱いに関して</td><td>①単元設定の妥当性</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4" rowspan="3">特記事項
・学校行事等が多かったこと、校外学習と校内宿泊学習を一緒に行ったことで、学習内容が増え、学習時間が足りなくなってしまったため、調べ学習の時間をあまり確保することができなかった。</td></tr>
<tr><td>②単元目標設定の妥当性</td><td>A Ⓑ C D</td></tr>
<tr><td>③生きる力を育む観点に立った学習活動の設定や授業構成の妥当性</td><td>Ⓐ B C D</td></tr>
<tr><td rowspan="7">指導の手立ての有効性に関して</td><td colspan="2">児童生徒の活動状況からの有効性の評価
（単元全体を通して）</td><td colspan="4">今後の指導の手立ての充実に向けて
※よかった手立ても記入</td></tr>
<tr><td>**① 興味・関心**
・授業展開
・教材・教具</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">・写真やイラスト、実物、手順カードなどを用いることで、生徒が興味をもって、意欲的に学習を進めることができた。</td></tr>
<tr><td>**② 見通し、分かりやすさ**
・授業の見通し
・活動の分かりやすさ</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">・日程表、写真や絵を使った手順カード、切符などの実物を使うことで、活動の見通しや学習の理解につながった。</td></tr>
<tr><td>**③ 目的意識・課題意識**
・目的理解や問題解決への意識</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">・どうしてこの学習が必要なのかを日程表などを用いて具体的に伝えたことで、目的意識をもってそれぞれの学習に取り組めた。</td></tr>
<tr><td>**④ 自己選択・自己決定**
・選択･決定する場面設定
・選択･決定するしやすさ</td><td>A Ⓑ C D</td><td colspan="4">・分からないときに手順カードを見て、教師の支援がなくても行動することができた。
・写真やパンフレットだけでは選択が難しい生徒もいたので、さらに個別の支援の充実が必要。</td></tr>
<tr><td>**⑤ 自己評価**
・振り返る場面設定
・振り返りのしやすさ</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">・切符の購入の模擬体験の様子をビデオで撮影し、すぐに生徒に呈示することで、活動を振り返ることができたのはよかった。</td></tr>
<tr><td>**⑥ 満足感・達成感**
・楽しさ､達成感のもちやすさ
・教師や友だちと共有できる設定</td><td>Ⓐ B C D</td><td colspan="4">・調理や切符の購入などの手順カードを用い、生徒が考え､話し合って活動している様子が増え、「できた」と感じている場面が多く見られた。</td></tr>
<tr><td colspan="6">＜児童生徒の活動状況に関する特記事項＞
・活動に興味を示し、「やってみたい」という気持ちが高まり、それを行うために視覚的支援を充実できたことで、自ら考え行動し、「できた」という達成感を得ることができていた。</td></tr>
<tr><td colspan="7">＜今後の単元の授業改善に向けて＞
・校外学習と校内宿泊学習を合わせたことで、すべての活動を事前学習で網羅することは難しかったが、今までの学習と今後の学習を見通して、重点を置く学習を系統的に設定していくことが必要。</td></tr>
</table>

(5) 指導の手立て工夫例整理表

単元名	校外学習に行こう／校内宿泊学習	題材名	電車に乗ろう	所属	中学部２年
生きる力を育む指導項目・指導事項	**◎自己の理解と対処**ー自己の理解、支援の要請、自己に関することの伝達　**かかわりあいの基礎**ー他者の話への注目・理解・応答、楽しさの共有 **場に即した応答**ー場に応じたあいさつ・報告・応答　**集団参加**ー集団への参加と役割 **○日程・予定**ー日程に沿た行動　**金銭の扱い**ー金額計算、支払い　**交通機関の利用**ー利用方法 **☆鑑賞・見学**ー映像				

主体性・自主性を育む指導の手立てに関して	主体性自主性を育む観点（授業づくりの視点）	よかった点	写真等
	①興味・関心 ・授業展開 ・教材、教具	・絵カードを見ながら確認したこと。 ・注目が難しい生徒には、小さい写真カードにして、T2、T3が呈示していたこと。	 写真１　生徒が作った日程表
	②見通し、分かりやすさ ・授業の見通し ・活動の分かりやすさ	・切符の買い方について、写真カードを順番にめくりながら確認したこと。 ・生徒が作った日程表を利用したこと。　**※写真１**	生徒自身が作った日程表なので、関心がもて、なおかつ見通しがもてました。 休み時間もみんなで見てました！
	③目的意識・課題意識 ・目的の理解や問題解決への意識	・ビデオで友だちの様子を見てよい点、悪い点を発表させたこと。	
	④自己選択・自己決定 ・選択･決定する場面設定 ・選択･決定するしやすさ	・分からなくなったときの、写真カードを見るなど自己選択の手段。**※写真２** ・駅員とのやりとりの中で、財布の出し入れや切符の受け取りなど、考えながら行うことができたこと。	 写真２　切符購入手順カード
	⑤自己評価 ・振り返る場面設定 ・振り返りのしやすさ	・自分たちの実践をビデオで振り返れたこと。	
	⑥満足感･達成感 ・楽しさ、達成感のもちやすさ ・教師や友だちと共有できる設定	・ビデオでほめられた生徒は大満足。ビデオに出ていない生徒は次回を楽しみにしていたこと。 ・友だちに買い方を教えてあげて、教師から評価を受けることができていたこと。	個々に応じ、ハンディタイプの手順カードを利用することで、自分で確認しながら切符購入のスキルを覚えました。実際の宿泊学習のときも生徒が活用しました。利用しやすいです！

（その他・コメント）

・授業内にビデオを見て、生徒が活動を振り返られる支援はとても有効です。この授業では、切符を買うときのマナー等を振り返り、行動を修正してました。特に視覚支援が必要な生徒、短期記憶や注意・集中に課題のある生徒には有効でした。

第３章　研究のまとめ

１　研究成果等に関するアンケートの実施

本研究の考察に役立てるため、今市特別支援学校小学部・中学部の教師に対しアンケートを実施し、研究の成果や課題、研究の取組に対する意見等を集約した。アンケートの設問内容は以下のとおりである。（平成22年12月実施）

○各研究内容に対する教師の取組状況等に関して（４択）

１　生活単元学習で扱っていく指導内容を、系統性・発展性を踏まえてとらえることができたか。

２　指導内容表や単元配列表等を活用し、単元の系統性・発展性を踏まえて、年間指導計画の作成ができたか。

３　育んでいく四つの力（かかわる力、生活する力、働く力、楽しむ力）や扱うべき指導内容を踏まえて、単元指導計画や時案等の作成、授業実践ができたか。

４　主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点を踏まえて、指導の手立ての設定や授業実践ができたか。

５　作成した単元評価票や授業評価票は、授業の充実・改善のために効果的な活用ができるか。

○各研究内容に対する成果と課題、研究全体に関する意見等について（記述）

６　四つの力（かかわる力、生活する力、働く力、楽しむ力）や系統性・発展性を踏まえた指導内容表の作成に関する成果や課題（改善に向けた具体策も含めて）について

７　指導内容表や単元配列表を活用した年間指導計画（四つの力を明示したもの）の作成に関する成果や課題（改善に向けた具体策も含めて）について

８　主体性・自主性を発揮できる授業づくりに関する成果と課題について

(1) 指導計画の作成や指導の手立ての設定のために、主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点を明確化したことについて

(2) 単元指導計画や指導案の様式及び記述内容について（四つの力、指導項目、指導事項、授業づくりの視点の表記など）

(3) 有効な指導の手立て例を活用しやすいように整理していくことについて

(4) 単元評価票や授業評価票の作成、授業研究会の改善について

９　さらなる今後の生活単元学習の充実のために必要なことについて

10　研究を通して、児童生徒の変容、教師の意識の変化、有意義だと感じられたことなど

２　研究の成果等

研究成果等に関するアンケートの設問１～５では、８、９割以上が「できた」「おおむねできた」の回答であり、今回の研究が、生活単元学習の充実に寄与した実感をほとんどの教師が抱いていることが分かった。また、設問６～10では、多くの肯定的な意見とともに、課題や今後の研究の継続に関した意見が複数寄せられた。

研究の成果等について、研究成果等に関するアンケートでの回答状況、特に設問６～10で回答された意見も参考にしながら考察し、以下のとおり整理した。

(1) 生活単元学習における指導内容表の作成（研究内容①）に関する成果

- **生活単元学習の重要性の再認識、育む力や指導内容の明確化**
- **学習の系統性・発展性のある指導計画作成の拠り所**
- **個別の指導計画への反映**
- **生活単元学習に対する教師同士の共通理解**
- **生活単元学習についての保護者との共通理解**

この指導内容表は、指導内容を四つの力、指導項目、指導事項、三つの段階（小学部低学年、小学部高学年、中学部）に整理することで、教師一人一人が、生きる力を育む上での生活単元学習の重要性を改めて再認識するとともに、育むべき力や扱う指導内容の明確化及び、指導内容の系統性

・発展性を示すことができた。この指導内容表を拠り所にすることにより、教師は自信をもって、系統性・発展性のある指導計画の作成に臨むことができるようになったと考える。

指導内容表は、これまでの今市特別支援学校の実践を再確認しながら小学部・中学部の全教師が関わり作成した。指導内容表の完成までの検討を通し、生活単元学習について深く追究する学び合いの場になり、教師同士の共通理解、連携を深める上でも効果的であった。さらに、この指導内容表は、保護者懇談等でも活用され、学校で行っている教育活動に対する保護者の理解を図る上でも役立てることができた。

(2)単元配列表・年間指導計画の作成（研究内容②）に関する成果

・育む力の配列やバランス、各単元で重視すべき力や指導内容を見通した年間指導計画の作成
・系統性・発展性のある年間指導計画の作成

指導内容表を踏まえて作成した単元配列表、指導内容分析表から、四つの力及び扱う指導内容を明確にした、系統的・発展的な生活単元学習の指導計画を作成する流れをつくることができた。学年内、学部内、小学部・中学部全体を見通した指導の全体像、各単元の配当、各単元間のつながり、指導の蓄積等を教師間で十分に共通理解を図りながら年間指導計画を作成することができたと考える。

(3)児童生徒が主体性・自主性を発揮できる授業づくり（研究内容③）に関する成果

①主体性・自主性を発揮できる授業づくりのための視点の明確化について

・効果的な教材研究や授業のイメージワークのしやすさ
・指導計画や指導の手立ての立てやすさ

児童生徒が、生きる力を確実に身に付けるためには、主体性・自主性を発揮して精一杯取り組める学びや体験の場が必要である。その実現のためにどのように授業を組立て、どのような手立てを講じるのか、そのことに教師は日々腐心しているといえる。その視点を明確化できたことで、児童生徒の活動の様子や教師の関わり方がイメージしやすくなった。このことから、効果的な教材研究ができ、指導計画の作成や指導の手立ての具体化に役立てることができた。

この主体性・自主性を発揮できる授業づくりの視点は、自分でやろうとする状況、自分でできる状況をつくる上で大変重要なことであり、児童生徒の自信や意欲など、育む力の検討で想定した基盤の力の向上を図ることとも密接に関連している。

②単元指導計画等の作成上の工夫について（様式、記述内容の見直し、改善）

・単元のねらいや目標の設定のしやすさ、各学習活動のねらいの明確化
・指導の手立ての意図の明確化
・指導計画のよさや改善点の検討のしやすさ
・他の単元や他学年の指導との比較検討のしやすさ

指導内容表に位置付けられた四つの力、指導項目、指導事項を目標や学習活動ごとに明記したことから、学習のねらいが明確に把握できるようになった。また、授業づくりの視点を表記したことで、指導の手立ての意図が見えやすくなり、効果的な教材・教具の検討に役立てられた。これらのことから、深く単元や授業構成を考えたり、児童生徒が自分でやろうとしたり、自分でできる状況をつくるための方策を練る上で有効な単元指導計画の様式をつくることができたと考える。さらに、指導計画の改善のポイントが押さえやすくなるとともに、他の単元や他学年の指導計画と見比べ、単元間、学年間の関連がとらえやすくなった。

③有効な指導の手立ての整理について（指導の手立て工夫例整理表の作成）

・指導の手立ての整理と共有化による次の指導の充実に向けた効果的な活用
・指導の手立ての振り返りと整理による授業づくりの活性化

実践した指導の手立てを整理し、児童生徒の取組の状況からその有効性を再確認していくこと

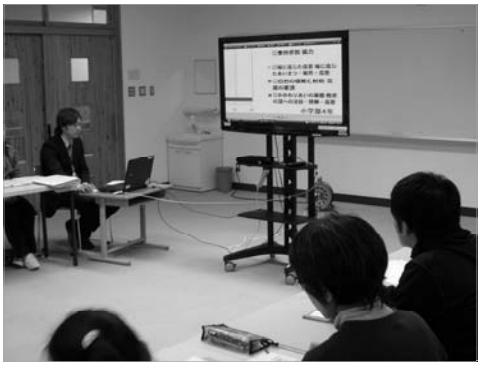
で、より効果的な指導の手立ての目当てをもつことができた。また、共有化することで担当者が代わっても、次年度の単元や他の単元の指導に生かしていくことができ、加えて、他の教師の取組を自分の実践に活用しやすくなった。この指導の手立て工夫例整理表の作成は、実務的な負担感はあるものの、指導の手立ての効果を振り返ることで、教師自身が指導の達成感や課題意識を高め、次の授業づくりの活性化に大いに役立てることができたと考える。

④授業改善の工夫について（効果的な授業評価及び授業研究会の検討、実施）

- **単元評価票や授業評価票を活用した振り返りによる授業や単元における指導のよさ、改善点の検討のしやすさ**
- **授業評価票の活用による授業研究会の充実（意見集約の効率化、協議の視点の焦点化）**
- **教師同士のコミュニケーションの深まり、連帯感の向上**

研究２年目には、すべての単元について、単元評価票に基づく単元の評価を行った。教師同士で児童生徒の姿を多面的に振り返りながら、妥当性の高い評価ができるようになった。この単元評価票は、今後の指導の充実に生かせるよう確実な引き継ぎを行っていくことが大切である。

授業研究会では、授業評価票と関連付けたことで参観者の意見が集約しやすくなり、協議の視点を絞った効率的な展開ができた。今後も続けられる無理のない授業研究会の形をつくることができたといえる。また、教師同士が、児童生徒の成長への願いを共有しながら授業者の取組を尊重し、よりよい授業の実現のための建設的な意見が、回を追うごとに多くあげられるようになってきた。教師の学び合いの場としての授業研究会への意識が高まり、同時に、教師同士のコミュニケーションが深まり、連帯感の向上にも役立てることができたと考える。



＜授業評価票の意見集約結果のモニター呈示＞

＜小グループによるテーマに沿った協議の様子＞

(4) 研究全体を通して

①研究全体の成果として

- **生きる力を確実に育んでいくために必要なきめ細かな授業づくりの実現**
- **授業に臨む教師の自信及び、より一層の協働性、同僚性の高まり**
- **ＰＤＣＡの過程に基づく授業づくりの構造の整理**

これまでの三つの研究内容の成果から、生きる力を確実に育んでいくために、育むべき力や扱う指導内容の明確化、系統性・発展性のある指導計画、児童生徒の主体性・自主性を発揮できる授業など、きめ細かな授業づくりに必要な方策を明らかにできたといえる。このことから、教師一人一人が、児童生徒が目指すべき将来像、学習のねらいや意図及びその発展性などについて、今まで以上に明確なビジョンをもって指導に当たることができるようになったと考える。作成した指導内容表、単元評価表、指導計画類、単元評価表、指導の手立て工夫例整理表などの成果物は、今後の実践に継続して役立てていきながら、さらによりよいものにしていくことが大切である。なお、今回明らかにした方策は、生活単元学習以外の学習の充実にも大いに活用できるものであると考える。

研究成果等に関するアンケートで、教師の自信や協働性､同僚性に関する意見が成果として多くあげられた。このことは、研究を通して、生活単元学習に対する理解が深まり実践力の向上が図れたこととともに、教師同士が一丸となって、よりよい生活単元学習の実現を追求したことによる大きな成果といえる。小学部・中学部担当教師全員で作成した指導内容表、担当者同士で綿密に検討した指導計画や授業評価、学び合いの場としての授業研究会などの取組から、お互いに支え合おうとする協働性､同僚性の高まりの中で､教師としての自信がより高められたと考える。

この自信は、教師が児童生徒に向き合い、そして授業に臨む大きな力となり、授業づくりの充実のために欠かせないものである。

今回の研究から、生活単元学習における授業づくりの構造について、指導計画の作成(Plan)―授業実践(Do)―授業評価(Check)―授業改善(Action)の過程を基調に整理し、次の図にまとめた。

生活単元学習における授業づくりの構造図

この図から、生活単元学習における指導内容表や単元配列表、主体性･自主性を発揮できる授業づくりの視点、効果的な指導計画、授業評価等は、指導計画の作成(Plan)―授業実践(Do)―授業評価(Check)―授業改善（Action）の過程の円滑な循環のために必要不可欠な要素であることが分かる。効果的な授業づくりに必要な要素を、このＰＤＣＡの一連の過程の流れの中に整理することで、授業づくりの構造を分かりやすくとらえることができる。

指導内容表や単元配列表は、系統性・発展性のある指導計画の作成や、授業の実践及び改善において重要な役割を担っている。また、明確化した授業づくりの視点は、効果的な指導の手立ての具体化に役立てることができる。さらに、これらのことを的確に反映できる指導計画の様式や記述内容を工夫していくことや、効果的な授業評価の方法、授業研究会等を整えていくことが、授業の充実や改善のために必要となる。今市特別支援学校の実践は、ＰＤＣＡの過程の観点からも意義のある成果をあげることができたと考える。

②研究の課題として

・研究の継続による、より妥当性や精度の高い生活単元学習の追究
・研究の進展による、さらなる課題への対応

研究成果等に関するアンケートからも、今回の研究で明らかにしてきた、指導内容表、単元配列表、年間指導計画、単元指導計画、授業づくりの視点、評価票、授業研究会などについて、より効果的、効率的で、妥当性や精度が高いものにしていく必要性が強くあげられている。これらについて、今後も児童生徒の変容をとらえながら検討を重ね、より一層の改善を図っていくことが大切である。

また、今後解決を図っていかなければいけない課題として、他の学習との連動、児童生徒の実態把握や達成度の評価の在り方、学校外の場での学習の充実、高等部の学習への発展と連動などがあげられる。生活単元学習の充実のためには欠かせない重要な課題である。

これらのことについては、今回の研究を今後の継続的な取組を通して進展させていく中で、解決していかなければならないことであると考える。

３　生活単元学習の充実、発展のために

今回の研究を踏まえて、児童生徒の生きる力を確実に育んでいく上で、生活単元学習の充実や発展のために重視していかなければならない点について、以下のとおりまとめる。

(1) 生活単元学習の土台固め

・学校の教育活動全体や指導体制を踏まえた生活単元学習における具体的な指導内容の明確化
・系統性・発展性を見渡せる指導計画等の作成
・主体的・自主的な取組に向けた指導の手立てや教師の関わりの意図の明確化、的確な教材・教具の提供
・円滑なＰＤＣＡの過程の確立（計画作成から評価、改善までの効果的な方法等）

今回の研究では、生活単元学習の意義を再認識し、指導内容の明確化を図り、系統的・発展的な指導計画を作成していくことの重要性を明らかにすることができた。このことは、児童生徒にとっても、学習のねらいや見通しのもちやすさにつながり、将来の自己実現に向けた学習への意欲を高める上で大切なことである。各特別支援学校で特色ある教育課程が編成され、様々な指導体制がとられている。各特別支援学校の実情に応じて、教育活動全体における生活単元学習の位置付けをしっかりと押さえ、自立や社会参加に向けて身に付けるべき力、扱っていく指導内容、各単元等の系統性・発展性について教師同士の共通認識を図っていくことが重要である。

また、効果的に単元や授業の目標を達成するために、どのような授業の準備をし、どう児童生徒に関わっていくのかについて十分に吟味していくことが大切である。そのための視点を明確化して授業づくりの精度を高めていく必要がある。この視点は、授業担当者同士が、指導の手立て等についての共通理解を図る上でも有益なものである。

今回の研究は、校内のＰＤＣＡの過程の改善にもつながっている。生活単元学習の指導計画の作成、実践、評価、改善の一連の過程を日常的で継続的な取組にしていくために、その方法や年間の流れを学校の実情に応じて効果的に設定していくことが大切である。

生活単元学習の充実や発展を図るためには、まずこれまでの実践のよさや課題を確認した上で、これらの要件を押さえながら、生活単元学習の土台をしっかりと固めていくことが何よりも求められていると考える。

(2) さらなる生活単元学習の充実、発展に向けて

- **教育活動全般及び生活単元学習における児童生徒の実態や達成度の的確な把握**
- **生活単元学習と教科別の指導及び他の各教科等を合わせた指導等との効果的な連動**
- **般化、深化のための学校内外の場での現実度の高い豊富な学習機会の設定**

生活単元学習のさらなる充実や発展を図るためのポイントとして、指導に具体的に生かせる児童生徒の実態や達成度の把握、他の教育活動との効果的な連動、学校内外の資源を活用した学習場面の充実に関することなどがあげられる。

ＰＤＣＡの過程の循環からも、まずは児童生徒の十分な実態把握が必要である。今回の研究で明らかにした生活単元学習の各指導内容と関連させるなどして、具体的で的確な実態把握及び達成度の評価を行えるようにすることが大切であると考える。

また、生活単元学習と教科別の学習等との連動が、適切で有効であるかどうかについて検証する必要がある。生活単元学習をより効果的に展開するためには、教科別の学習や、各教科等を合わせた指導である日常生活の指導、作業学習などとの一層の有機的な連動と、相補的な役割分担を十分に図っていくことが不可欠である。

生活単元学習で育まれた力が、実際の生活の場である家庭や地域で発揮できるように、学校内だけでなく、現実度の高い学校外の資源を活用した学習をより豊かにしていくことが重要である。そのためには、学校と地域との連携を深めるとともに、教師自身の地域に対する知見と、生活や暮らしに対する深い洞察に磨きをかける必要がある。

これらのことは今回の研究では明らかにできなかったが、児童生徒の自立や社会参加に向け、生活単元学習で生きる力をより確かな力として育むためには欠かせない要件である。培ってきた生活単元学習の土台を足場にして、これらのことについても追究していくことが重要である。

(3) 授業づくりに必要な実践力の向上のために

- **教師の自信の高まりと授業を実践する力の向上**
  （子ども理解、目標化･教材化･具体化→指導計画の作成、授業分析→評価､改善 等）
- **チーム力、学校全体の組織力の向上（協働性、同僚性の向上）**

生活単元学習のみならず全ての授業において、指導の充実のためには多くの教師の知見を集約させることが大切である。このことにより、子ども理解の視点、目標化、教材化、具体化する視点、授業を分析する視点など、指導計画の作成や指導の評価及び改善に必要な視点を多面的に得ることができる。同時に、多くの教師から支えられているという安心感のもとで自信や意欲が高まり、その中で教師は、指導計画を作成したり、授業を評価し改善策を練ったりなど、授業づくりに必要な実践力を向上させることができる。

教師が、日々生き生きと自信をもって児童生徒に対峙し授業を実践するには、教師一人一人が常に担っている授業の意義や価値を再認識しながら、授業づくりに必要な力量を高めていくことが大切である。そのためには、教師集団の連携を深め、チーム力、学校全体の組織力を向上させていかなければならない。すなわち、よりよい授業づくりのために、すべての教師が主体的・自主的に力を発揮できる、協働性、同僚性の高い学校づくりがますます求められている。

◎研究成果物について

今回の研究を通して、今市特別支援学校では、これまでの実践の蓄積や自校の実情に合わせて次の成果物を作成しました。各特別支援学校や特別支援学級において、生活単元学習のより一層の充実のために、これらの成果物を役立てていただければ幸いです。

○生活単元学習における指導内容表〈小学部･中学部〉 -- Ｐ39～47 ― **資料１** 参照
○生活単元学習 単元配列表〈小学部･中学部〉 ---------- Ｐ48 ― **資料２** 参照
○生活単元学習 指導内容分析表（単元種別） ---------- Ｐ49 ― **資料３** 参照
○生活単元学習 年間指導計画（作成例） ---------- Ｐ50 ― **資料４** 参照
○生活単元学習 単元指導計画 ---------- Ｐ13･14､20･21､26･27 ― 作成例参照
○生活単元学習 時案（１時間の授業計画） ---------- Ｐ15･16､22･23､27～29 ― 作成例参照
○生活単元学習 単元評価票 ---------- Ｐ18､24､30 ― 作成例参照
○生活単元学習 授業評価票 ---------- Ｐ51 ― **資料５** 参照
○指導の手立て工夫例整理表 ---------- Ｐ19､25､31 ― 作成例参照

― 参 考 文 献 ―

・文部科学省(2009)「特別支援学校学習指導要領解説　総則等編(幼稚部･小学部･中学部)」　教育出版

・国立特別支援教育総合研究所(2006)「生活単元学習を実践する教師のためのガイドブック」

・全日本特別支援教育研究連盟(2010)「特別支援教育の『子ども主体』とその実践」
特別支援教育研究第629号　東洋館出版社

・太田正巳(2009)「特別支援教育の教師のための授業づくり」　明治図書

・太田正巳(2010)「ＲＰ法で特別支援教育の授業を効果的に高める」　黎明書房

・小島道生・石橋由紀子(2008)「発達障害の子どもがのびる！かわる！『自己決定力』を育てる教育･支援」
明治図書

・広島県教育委員会(2006)「盲・聾・養護学校授業改善ハンドブック」

・広島県立教育センター(1999)「自己決定の支援に関する研究（平成10年度)」

・広島県立教育センター(2000)「主体的な活動を促す授業つくり（平成11年度)」

・北九州市立八幡西養護学校(1998)「平成９年度生活単元学習資料集・単元集」

・新潟大学教育人間科学部附属養護学校(2006)「『自立につながる力』を育てる教育システム」
明治図書

・千葉大学教育学部附属特別支援学校(2009)「生活単元学習・作業学習の進め方Ｑ＆Ａ」
Ｋ＆Ｈ出版

・長崎大学教育学部附属特別支援学校(2010)「研究紀要 第18集　自己を育む授業実践(平成21年度)」

・栃木県立今市特別支援学校(2010)「平成21年度　あゆみ　－実践報告－　第27号」

・栃木県立今市特別支援学校(2011)「平成22年度　あゆみ　－実践報告－　第28号」

― 資　料 ―

資料1

今市特別支援学校 生活単元学習における指導内容表〈小学部･中学部〉指導項目･指導事項一覧

—かかわる力—

指導項目	指　導　事　項
自己の理解と対処	自己の理解　感情の調整　支援の要請　自己に関することの伝達
かかわりあいの基礎	他者の話への注目･理解･応答 楽しさの共有 相手の意図や感情の理解と調整
場に即した応答	身近な人へのあいさつ　場に応じたあいさつ･報告･応答　電話等での応答
集団参加	集団への参加と役割　協力　集団のマナーやルール

—生活する力—

指導項目	指　導　事　項
健康管理	清潔　身なり　予防
整理整とん	分類　位置･場所の把握
掃除	用具の種類･使い方　手順･場所
洗濯	洗濯　干す･アイロンかけ　たたむ
金銭の扱い	お金の価値･種類　金額計算･支払い　保管･貯蓄
買い物	計画･行動　商品選択　店員への支払い
調理	献立･材料の選択　調理の手順　器具の使い方
情報機器の利用	情報機器の種類　情報機器の操作
日程･予定	日程に沿った行動　時刻　年月日･曜日　予定
交通機関の利用	交通手段　利用方法　安全･マナー
公共施設の利用	施設の働き　利用の仕方
社会の仕組み	家族･親戚･地域の人　いろいろな店　社会の様子　交通ルール

—働く力—

指導項目	指　導　事　項
役割	役割活動　役割の種類や分担　連絡･報告
約束ときまり	自他の区別　きまり　マナー
道具の使い方	名称･知識　扱い方･危険防止　片付け･保管
仕事の知識	仕事への興味･関心　仕事の種類　仕事に臨む態度
生活設計･将来設計	自己の理解と身近な生活目標　職場見学　将来の夢

—楽しむ力—

指導項目	指　導　事　項
遊び	遊び･ゲーム･スポーツ　ルール･きまり　準備･後片付け
作品制作	表現　材料･用具　鑑賞
表現活動	ダンス　楽器演奏　演劇
鑑賞･見学	音楽　映像　見学
草花･野菜の栽培	草花や野菜への興味･関心　栽培　収穫
季節と自然	自然　季節の行事

今市特別支援学校　生活単元学習における指導内容表〈小学部・中学部〉№1

―かかわる力―

「自己の理解と対処」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
自己の理解	・呼名に対する反応等、自分が呼ばれていることに反応する。	・自分の良いところや得意なところに気付く。	・自分の長所や短所が分かる。
感情の調整	・教師の支援を受け、自分の感情を調整する。	・自分に合った感情を調整する手段を身に付ける。	・場に合った手段で感情を調整する。
支援の要請	・教師の支援を受け、自分に合った方法で援助を求める。	・困ったときに、自分から援助を求める。	・周囲の教師や友だちに分からないことや困ったことを、質問をしたり依頼して援助を求めたりする。
自己に関することの伝達	・教師の支援を受け、好きなこと、やりたいことを選んだり、感謝や謝罪を教師に対し表現したりする。	・教師の支援を受け、感謝や謝罪、自分の気持ちを友だちに伝える。 ・教師の支援を受け、自分のよいところや、好きなことを伝える。	・感謝や謝罪、自分の気持ち、意思などを友だちに分かるように伝える。 ・簡単な自己紹介をする。
基礎となる主な教科等			**社会**「集団生活ときまり」 **職業・家庭**「役割」
	道徳　自立活動「人間関係の形成」「コミュニケーション」「心理的な安定」		

「かかわりあいの基礎」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
他者の話への注目・理解・応答	・教師の話に注目する。 ・教師からの簡単な指示や要請に応じる。	・教師や友だちの簡単な話に注目し、その内容や自分への要望が分かる。	・教師や友だちのまとまりのある話を最後まで聞き、その内容や自分への要望が分かる。
楽しさの共有	・教師に誘われて、一緒に遊ぶ。 ・教師を誘って、一緒に遊ぶ。	・教師の仲立ちを受け、友だち同士で遊んだり、やりとりをしたりして共に過ごす。	・お互いに誘い合って活動したり、教師や友だちと話題を共有し、語り合ったりする。
相手の意図や感情の理解と調整	・相手に意図や感情があることに気付く。	・教師の支援を受け、相手の意図や感情を察したり理解したりしながら、自分の要求を伝える。	・相手と自分の意図や感じ方の違いを理解した上で、話し合ったり、譲り合ったりする。
基礎となる主な教科等	**生活**「交際―自分自身と家族、身近な人との交際、気持ちを伝える応対」「遊び―いろいろな遊び」 **国語**「聞く・話す」		**社会**「集団生活ときまり」 **職業・家庭**「役割」「余暇」
	道徳　自立活動「人間関係の形成」		

「場に即した応答」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
身近な人へのあいさつ	・教師に簡単なあいさつをしたり、身近な人に教師と一緒にあいさつをしたりする。	・友だちやいろいろな教師にあいさつをする。	・自分と関係するいろいろな相手に、自分からあいさつをする。
場に応じたあいさつ・報告・応答		・教師の支援を受けながら、場に応じたあいさつや報告をする。	・場面の状況や相手に応じた丁寧な言葉づかいで、あいさつや報告をしたり、受け答えをしたりする。
電話等での応答		・電話での簡単なやりとりをする。	・電話で丁寧な応答をする。
基礎となる主な教科等	**生活**「交際―自分自身と家族、身近な人との交際、気持ちを伝える応対、電話や来客の取次ぎ、集団の参加や集団内の役割、共同での作業と役割分担」「社会の仕組み―家族・親戚・近所の人」 **国語**「聞く・話す」		**国語**「聞く・話す」 **社会**「集団生活ときまり」 **職業・家庭**「役割」
	道徳　自立活動「人間関係の形成」「環境の把握」「コミュニケーション」		

「集団参加」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
集団への参加と役割	・教師と一緒に集団の中で活動することに慣れる。	・集団活動の中で簡単な係活動をする。	・集会活動などで、決められた自分の役割を果たす。 ・相手の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりして、話し合い活動に参加する。
協力	・頼まれたことを、教師と一緒に行う。	・頼まれたことを、友だちと一緒に行う。	・自分から気付いて、友だちや教師を助けたり、手伝ったりする。
集団のマナーやルール	・活動する友だちや活動場所が分かり、一緒に行動する。	・決められたルールや約束事を意識して、集団活動に参加する。	・教師や友だちとの約束、集団活動のルールやマナーを守って行動する。
基礎となる主な教科等	**生活**「交際―気持ちを伝える応対、集団の参加や集団内での役割、共同での作業と役割分担」 **国語**「聞く・話す」		**国語**「聞く・話す」 **社会**「集団生活ときまり」 **職業・家庭**「役割」
	道徳　自立活動「人間関係の形成」		

今市特別支援学校　生活単元学習における指導内容表〈小学部・中学部〉№2

―生活する力―

「健康管理」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
清潔	・教師と一緒に着替え、歯磨き、手洗い等をする。	・教師の援助を受けながら、髪をとかしたりつめを切ったりする。	・自分から清潔を意識して身辺の処理をする。
身なり	・教師と一緒に簡単な衣服の着脱をする。	・教師の援助を受けながら、着脱後の身だしなみを整える。	・身だしなみを整えたり、天候や活動に合わせて衣服を調節したりする。
予防	・教師と一緒に手洗い、うがいをする。 ・絵本の読み聞かせ等を通して、病気の予防や衛生の大切さについて関心をもつ。	・かぜなどの予防を意識し、教師の援助を受けながら手洗い、うがいをする。 ・体調の悪いことやけがなどを教師等に知らせる。	・体調管理に関心をもち、予防に必要な対応をする。 ・体調を意識して活動する。
基礎となる主な教科等	**生活**「基本的生活習慣―清潔、身なり」「健康・安全―健康管理」		**理科**「人体」 **保健体育**「保健」 **職業・家庭**「家庭に関する基礎的な事項―衣服とその着方」
	自立活動「健康の保持」		

「整理整とん」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
分類	・自分のものと他人のものとを区別する。	・物品を同じ種類で分ける。	・いくつかの物品を用途ごとに分ける。
位置・場所の把握	・自分の机やロッカーを覚える。	・物品を元あった場所に片付ける。	・いくつかの物品を用途ごとに元の場所に片付ける。
基礎となる主な教科等	**生活**「手伝い・仕事―整理整頓」 **算数**「数量の基礎」		**職業・家庭**「道具・機械等の取扱いや安全や衛生」「家庭に関する基礎的な事項－住まいや暮らし方」

「掃除」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
用具の種類・使い方	・身近な掃除用具の名称を知る。	・ほうきとちりとりの使い方、掃除機のかけ方と片付け方等を身に付ける。	・場所に合った用具を使って掃除をする。
手順・場所	・教師と一緒に、ごみの片付けをしたり、台ふきをしたりする。	・床掃除や机ふきなどの教室清掃の手順に沿って掃除をする。	・教室以外の担当各場所の清掃手順に沿って掃除をする。
基礎となる主な教科等	**生活**「手伝い・仕事―掃除、後片付け」		**理科**「事物や機械」 **職業・家庭**「道具・機械等の取扱いや安全や衛生」「家庭に関する基礎的な事項―住まいや暮らし方」

「洗濯」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
洗濯	・身の回りのものを手で洗う。	・教師の援助を受けながら手順に従い洗濯する。	・自分で必要な準備をし、洗濯の手順に沿って洗濯をする。
干す・アイロンかけ		・教師と一緒に、身の回りの洗濯物を干す。	・干し方の手順を覚え、身の回りの洗濯物を干す。 ・エプロンやハンカチなどにアイロンをかける。
たたむ		・簡単なたたみ方で、衣類をたたむ。	・衣類別に適したたたみ方でたたむ。
基礎となる主な教科等	**生活**「基本的生活習慣―清潔」「手伝い・仕事―手伝い、整理整頓」		**理科**「事物や機器」 **職業・家庭**「家庭に関する基礎的な事項―衣服とその着方」
	自立活動「身体の動き」		

「金銭の扱い」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
お金の価値・種類	・お金の大切さを知る。 ・お金を使って物が買えることを知る。	・いろいろな品物の値段を知る。	・働くことによって、お金がもらえることを知る。
金額計算・支払い	・教師と一緒に商店などで買い物をしたり自動販売機を利用したりする。	・教師と一緒に数種類の硬貨を組み合わせて買い物をする。	・両替をしたり、所持している金額に合わせて複数の品物を購入したりする。 ・使った金額を記録する。
保管・貯蓄	・教師と一緒にお金を財布や貯金箱などに入れて、保管・管理することを知る。	・財布や貯金箱を管理する。	・金融機関の役割を知り、利用する。
基礎となる主な教科等	**生活**「金銭―金銭の扱い」 **算数**「数量の基礎、数と計算」		**数学**「実務」 **社会**「社会の出来事」「公共施設」 **職業・家庭**「働くことの意義」

「買い物」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
計画・行動	・教師と一緒に、自動販売機やお店を利用する。	・教師や友だちと一緒に、購入する品物を決め、目的に合ったお店を選ぶ。	・買い物の計画を立て、それに沿って買い物をする。
商品選択	・買いたい(好きな)品物を選んだり伝えたりする。	・目的とする品物を選んだり伝えたりする。	・教師や友だち、店員に聞きながら、目的にあった品物を選択する。
店員への支払い	・店員にお金を支払う。	・教師と一緒に、店員に必要な言葉をかけて、お金を支払う。	・店員に必要な言葉をかけて、お金を支払う。
基礎となる主な教科等	**生活**「金銭―金銭の扱い、買い物、自動販売機等の利用」「社会の仕組み―いろいろな店」 **国語**「聞く・話す」読む」「書く」		**社会**「社会の出来事」「公共施設」 **数学**「実務」
	自立活動「人間関係の形成」「コミュニケーション」		

「調理」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
献立・材料の選択	・いくつかの献立の中から作りたい献立を選択する。	・教師と一緒に簡単な調理に必要な材料を知る。	・調理に必要な材料を選ぶ。
調理の手順	・教師と一緒に簡単な調理をする。	・簡単な調理を教師と一緒に手順を確認しながら作る。	・自分で手順を確認しながら調理をする。
器具の使い方	・教師と一緒に調理器具を使う。	・いろいろな調理器具の使い方に慣れる。	・必要な器具を準備して安全に注意し使う。
基礎となる主な教科等	**生活**「基本的生活習慣―食事」「手伝い・仕事―手伝い」「健康・安全―危険防止」 **国語**「聞く・話す」「読む」「書く」 **算数**「量と測定」		**理科**「事物や機器」 **職業・家庭**「家庭に関する基礎的な事項―食事や調理」

「情報機器の利用」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
情報機器の種類	・いろいろな情報機器を知る。	・目的に応じた情報機器を知る。	・目的に応じた情報機器を選択する。
情報機器の操作	・教師と一緒に簡単な操作をする。	・簡単な操作の仕方を知る。	・基本的な操作をし利用する。
基礎となる主な教科等	**生活**「手伝い・仕事―手伝い」 **国語**「読む」		**社会**「公共施設(公共物の利用)」「社会の出来事」 **理科**「事物や機器」 **職業・家庭**「情報―コンピュータ等の情報機器」

「日程・予定」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
日程に沿った行動	・教師と一緒に日程に沿って行動する。	・教師の簡単な指示を受けながら、日程に沿って行動する。	・日程を確認したり、覚えたりして行動する。
時刻	・生活に必要な時刻や時計に関心をもつ。	・時計でおよその時刻を読んだり、時刻と行動を結び付けたりする。	・時計から正確な時刻を読みとる。
年月日・曜日	・今日の日付や曜日を知ったり、行事の期日を覚えたりする。	・曜日の名称や順序などを知ったり、カレンダーの読み方を知ったりする。	・カレンダーから、月や年の流れを知る。
予定	・これからの活動内容や明日の予定など、身近な予定を知る。	・カレンダーや予定表などから、週、月程度のおよその予定、主な日程の流れを知る。	・カレンダーや予定表で確認しながら、行事や活動の期日（年月日・曜日）、時間を知る。
基礎となる主な教科等	**生活**「日課・予定」 **国語**「聞く・話す」「読む」「書く」 **算数**「実務」		**社会**「集団生活ときまり」 **数学**「実務」 **理科**「事物や機器」 **職業・家庭**「役割―自分の役割」
	自立活動「環境の把握」		

「交通機関の利用」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
交通手段	・交通機関の種類を知る。	・目的地までの交通手段を知る。	・目的地や状況に応じて、交通手段を調べ、選択する。
利用方法	・教師と一緒に電車やバスなどを利用する。	・電車やバスなどの乗降や料金の支払いを経験する。	・事前に料金を調べ必要な切符の購入や料金の支払いをする。
安全・マナー	・教師の指示に従い、交通機関の安全な利用の仕方やマナーを知る。	・教師の援助を受け、マナーやきまりを守って交通機関を利用する。	・交通機関の利用に関する表示や放送に従って行動する。
基礎となる主な教科等	**生活**「公共施設―交通機関の利用」「きまり―日常生活のきまり、マナー」 **国語**「聞く・話す」「読む」「書く」		**社会**「公共施設」「集団生活ときまり」
	道徳		

「公共施設の利用」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
施設の働き	・学校や自宅近くの公園の場所を知る。	・身近な公共施設の場所を知る。	・日常生活に関係の深い公共施設の場所及びその働きを知る。
利用の仕方	・教師と一緒に、近隣にある公園や駅、学校など公共施設を利用する。	・教師や友だちと一緒にきまりやマナーを守って身近な施設を利用する。	・きまりやマナーを守って目的に合った施設を利用する。
基礎となる主な教科等	**生活**「公共施設―公園や遊園地などの利用、公共施設の利用」「社会の仕組み―社会の様子」「きまり―日常生活のきまり、マナー」 **国語**「聞く・話す」「読む」「書く」 **体育**「基本的な運動」「運動遊び」		**社会**「公共施設」「集団生活ときまり」
	道徳		

「社会の仕組み」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
家族・親戚・地域の人	・家族のことに関心をもつ。 ・家族がそれぞれ役割をもっていることを知る。	・地域で働く人に関心をもつ。	・家族の職業や身近に見られる職業に関心をもつ。
いろいろな店	・実際に出かけたりして、近隣にある店に関心をもつ。	・店の名称や販売している商品の種類を知る。	・生活に必要な物を購入する店を選び利用する。
社会の様子		・身近な地域の自然や街の様子の特徴、地域の名称や県名が分かる。 ・身近な社会の出来事を知り関心をもつ。	・地域や国内、世界、社会の移り変わりなどに関心をもつ。 ・様々な社会の出来事を知り、関心をもつ。
交通ルール	・教師と一緒に、交通信号に注意しながら道路を歩いたり、横断歩道を安全に渡ったりする。	・教師と一緒に、歩行者用の信号機に従って道路を横断したり、踏切の警報機に従って線路を渡ったりする。	・信号機や交通標識に従って安全に道路を通行する。
基礎となる主な教科等	**生活**「交際―自分自身と家族、身近な人との交際」「役割―地域の行事への参加」「社会の仕組み―家族・親戚・近所の人、いろいろな店、社会の様子」 **国語**「聞く・話す」「読む」「書く」		**国語**「聞く・話す」「読む」「書く」 **社会**「集団生活ときまり」「公共施設」「社会の出来事」「地域の様子や社会の変化」「外国の様子」 **職業・家庭**「働くことの意義」「職業に関する基礎的な知識」
	道徳		

今市特別支援学校　生活単元学習における指導内容表〈小学部・中学部〉№3

働く力

「役割」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
役割活動	・教師と一緒に簡単な手伝いをする。	・教師の援助を受けながら、簡単な手伝いや役割活動を最後まで行う。	・分担に従って、自分の役割活動を最後まで行う。
役割の種類や分担		・様々な役割があることを知り、自分や友だちの役割分担が分かる。	・分担や担当を決めて、活動する。
連絡・報告		・教師の援助を受けながら、分からないことを聞いたり、終了の報告をしたりしながら役割活動をする。	・分からないことを質問したり、終了の報告をしたりしながら役割活動をする。
基礎となる主な教科等	**生活**「役割―集団の参加や集団内での役割、共同での作業と役割分担」「手伝い・仕事―手伝い」 **国語**「聞く・話す」「読む」「書く」		**社会**「集団生活ときまり」 **職業・家庭**「職業に関する基礎的な知識」
	道徳		

「約束ときまり」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
自他の区別	・自分の物と他人の物を区別する。	・持ち主の了解を得て、物を借り、使用後に返却する。	・拾得物を届けたり、持ち主を探したりする。
きまり	・教師と一緒に簡単なきまりを守って行動する。	・教師の援助を受けながら、身近な生活におけるきまりを守って行動する。	・社会生活を送る上での基本的なきまりを知り、それを守って行動する。
マナー	・教師と一緒に身近な生活におけるマナーを守って行動する。	・教師の援助を受けながら、身近な生活におけるマナーを守って行動する。	・社会生活におけるマナーを守って行動する。
基礎となる主な教科等	**生活**「きまり―自分の物と他人の物の区別、学校のきまり、日常生活のきまり、マナー」「遊び―遊具の後片付け」「交際―気持ちを伝える応対」「きまり」「きまり・安全」		**社会**「集団生活ときまり」 **職業・家庭**「働くことの意義」「職業に関する基礎的な知識」
	道徳		

「道具の使い方」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
名称・知識	・身近にある道具の名称や用途を知る。	・日常生活に多く使われる道具の名称や用途を知る。	・日常生活に関係の深い機械・器具の名称や用途、仕組みについて知る。
扱い方・危険防止	・教師と一緒に身近にある道具を安全に扱う。	・日常生活で使用する道具の目的に合わせた扱い方や安全な使用法を知る。	・様々な道具や機械の扱い方を知り、安全や衛生に気を付けながら使用する。
片付け・保管	・教師と一緒に使用した道具を、保管場所に片付ける。	・道具の保管の仕方が分かり、教師の援助を受けて片付けを行う。	・道具や機械の簡単な手入れをしたり、整理して保管したり点検したりする。
基礎となる主な教科等	**生活**「手伝い・仕事―手伝い、後片付け」「健康・安全―危険防止」「遊具―遊具の後片付け」		**理科**「事物や機械」 **職業・家庭**「道具・機械等の取扱いや安全や衛生」
	自立活動「身体の動き」		

「仕事の知識」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
仕事への興味・関心		・身近な人たちの働く姿を見たりして、仕事への関心を高め、働くことの大切さを知る。	・職場見学をしたり先輩の実習報告を聞いたりして、仕事について関心をもったり、将来働くことへの意欲をもつ。
仕事の種類		・家族や身近な人が、どんな仕事をしているかを知る。	・身近な地域にどんな仕事（職種）があるかを知る。
仕事に臨む態度	・頼まれたことを教師と一緒に最後まで行う。	・与えられた役割を継続することの大切さを知る。	・職場見学等を通し、働く上で必要な体力や態度・技能について知る。
基礎となる主な教科等	**生活**「社会の仕組み―家族・親戚・近所の人」「手伝い・仕事―手伝い」		**国語**「聞く・話す」「読む」「書く」 **社会**「集団生活ときまり」 **職業・家庭**「働くことの意義」「職業に関する基礎的な知識」「役割」
	道徳		

「生活設計・将来設計」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
自己の理解と身近な生活目標	・教師と一緒に好きなこと、やりたいこと、がんばることなどを考える。	・教師の援助を受けながら、好きなこと、やりたいこと、がんばることなどについて考え、目標を立てる。 ・教師の援助を受けながら、目標に沿って計画を立てる。	・自分の長所や短所、好きなこと、やりたいこと、がんばることなどを考え、目標を立てる。 ・目標に沿って計画を立て、実施後、教師の援助を受けながら振り返る。
職場見学			・先輩が働いている職場を見学したりして、職場や仕事内容、将来の生活に関心をもつ。
将来の夢		・教師の援助を受けながら、自分が将来なりたいものを考える。	・自分が将来なりたい職業と、そのために必要なことを教師と一緒に考える。
基礎となる主な教科等	**生活**「日課・予定」「きまり―日常生活のきまり」「役割―集団の参加や集団内での役割」「手伝い・仕事―手伝い」 **国語**「聞く・話す」「読む」「書く」		**国語**「聞く・話す」「読む」「書く」 **社会**「集団生活ときまり」 **職業・家庭**「働くことの意義」「職業に関する基礎的な知識」「役割」
	道徳		

今市特別支援学校　生活単元学習における指導内容表〈小学部・中学部〉№4

楽しむ力

「遊び」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
遊び・ゲーム・スポーツ	・教師や友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。	・友だちと一緒に簡単なルールのある遊びを楽しんだり、簡単な遊具を使って遊んだりすることを楽しむ。	・友達と一緒に、いろいろなゲームや簡単なスポーツなどをすることを楽しむ。
ルール・きまり	・順番を守ったり、交代をしたりするなどの簡単なきまりのある遊びをする。	・勝ち負けや役割などのある遊びをする。	・ルールやきまりを守ってゲームや簡単なスポーツをする。
準備・後片付け	・教師と一緒に遊具を準備したり片付けたりする。	・教師の援助を受け、遊具を準備したり片付けたりする。	・ゲームやスポーツに必要なものを考え、友だちと協力して準備したり片付けたりする。
基礎となる主な教科等	**生活**「遊び―いろいろな遊び、遊具の後片付け」「交際―気持ちを伝える応対」 **国語**「聞く・話す」 **体育**「運動遊び」「いろいろな運動」「きまり」「きまり・安全」		**社会**「集団生活ときまり」 **保健体育**「いろいろな運動」「きまり」 **職業・家庭**「余暇」
	道徳		

「作品制作」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
表現	・かいたり、つくったり、飾ったりすることに関心をもつ。	・見たことや感じたことを絵にかいたり、つくったり、それを飾ったりする。	・見たことや感じたこと、想像したことを、工夫して絵にかいたり、つくったり、それを飾ったり、使ったりする。
材料・用具	・土・木、紙などの身近な材料をもとに造形遊びをする。	・粘土、クレヨン、はさみ、のりなどの身近な材料や用具を親しみながら使う。	・いろいろな材料や用具を工夫しながら、目的に合わせて使う。
鑑賞	・自分の作品を楽しむ。	・友達と作品を見せ合ったり、造形品などの形や色、表し方のおもしろさなどに関心をもつ。	・自然や造形品の美しさや特徴などに親しみをもつ。
基礎となる主な教科等	**生活**「自然―自然との触れ合い」 **図画工作**「造形遊び」「表現」「材料・用具」「鑑賞」		**理科**「生物」「事物や機器」「自然」 **美術**「表現」「材料・用具」「鑑賞」
	自立活動「身体の動き」		

「表現活動」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
ダンス	・教師や友だちと一緒に簡単なリズムに合わせて、身体を動かして楽しむ。	・音楽に合わせて簡単な身体表現をすることを楽しむ。	・音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり、リズムに合わせて身体表現をしたりすることを楽しむ。
楽器演奏	・打楽器などを使ってリズム遊びや簡単な合奏をして楽しむ。	・旋律楽器に親しみ、リズム合奏をすることを楽しむ。	・打楽器や旋律楽器などを使って、自由に演奏することを楽しむ。
演劇	・教師と一緒に演じて楽しむ。	・教師の援助を受けながら、自分の役柄や場面に合わせて演じることを楽しむ。	・友だちと協力しながら演技内容や配役を決めたり演じあったりすることを楽しむ。
基礎となる主な教科等	**生活**「遊び―いろいろな遊び」「役割―集団の参加や集団内での役割」 **国語**「聞く・話す」「読む」「書く」 **音楽**「音楽遊び」「身体表現」「器楽」 **体育**「運動遊び」「いろいろな運動」		**国語**「聞く・話す」「読む」「書く」 **社会**「集団生活ときまり」 **音楽**「身体表現」「器楽」 **保健体育**「いろいろな運動」
	自立活動「人間関係の形成」「心理的な安定」「身体の動き」		

「鑑賞・見学」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
音楽	・好きな音や音楽を聴き楽しむ。	・様々な歌や演奏などを聴き、いろいろな音楽に関心をもつ。	・いろいろな音楽を楽器の音色やリズムなどに関心をもって聴く。
映像	・好きなテレビや映像を見て楽しむ。	・テレビや映像を見て、身近な事物や動物などに関心をもつ。	・いろいろな映像の内容に関心をもって見る。
見学	・教師と一緒に作品展などを見学して楽しむ。	・教師や友だちと一緒に作品展や施設の展示物などを見て楽しむ。	・教師や友だちと一緒に、様々な施設等を見学して楽しんだり、感想をまとめたりする。
基礎となる主な教科等	**生活**「公共施設―公共施設の利用」 **国語**「聞く・話す」「読む」「書く」 **音楽**「鑑賞」**図画工作**「鑑賞」		**国語**「聞く・話す」「読む」「書く」 **社会**「公共施設」 **音楽**「鑑賞」 **美術**「鑑賞」
	道徳　自立活動「心理的な安定」		

「草花・野菜の栽培」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
草花・野菜への興味・関心	・草花や野菜を見たり触れたりする。	・様々な種類の草花や野菜を知る。	・様々な草花や野菜の名称や特徴を知る。
栽培	・教師と一緒に草花や野菜を育てる。	・草花や野菜を育て、成長の様子を観察する。	・希望や目的に合う草花や野菜を育てる。 ・収穫までに必要な管理をする。
収穫	・教師と一緒に野菜を収穫して楽しむ。	・教師の援助を受け、野菜や果物を出来具合を確認しながら収穫する。 ・収穫した野菜や果物の味覚を味わう。	・収穫のための手順や方法を知る。 ・収穫した野菜や果物を簡単な加工や調理をして味わう。
基礎となる主な教科等	**生活**「自然―動物の飼育・植物の栽培」 **国語**「聞く・話す」「読む」「書く」		**理科**「生物」「事物や機器」「自然」 **美術**「表現」「材料・用具」「鑑賞」

「季節と自然」

学部等 指導事項	小学部　低学年	小学部　高学年	中学部
自然	・公園、川、野山などで、教師と一緒に自然の事物や生物に触れる。	・自然の事物や事象、生物に興味・関心をもつ。	・興味をもった自然の事物・現象について調べ、日常生活との関係を知る。
季節の行事	・主な季節の行事を体験し楽しむ。	・教師の援助を受けながら、季節の行事を準備したり参加したりして楽しむ。	・季節の行事を企画したり、準備したり、参加したりして楽しむ。
基礎となる主な教科等	**生活**「自然―自然との触れ合い、季節の変化と生活」「地域の行事への参加」		**社会**「社会の出来事」 **理科**「生物」「自然」
	道徳　自立活動「心理的な安定」		

今市特別支援学校　生活単元学習　単元配列表〈小学部･中学部〉

No.	単元の種別	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
1	学年始めの仲間づくりを主とする単元	みんな仲良し１年生	みんな仲良し２年生	みんな仲良し３年生	４年生になって	５年生になって	６年生になって	新しい仲間		
								生活目標･係決め	生活目標･係決め	生活目標･係決め
2	季節と生活や習慣に関することを主とする単元	夏の生活	夏の生活	夏の生活	夏の生活	夏の生活	夏の生活			
		冬の生活	冬の生活	冬の生活	冬の生活	冬の生活	冬の生活			
3	学校生活や人生の節目に関する単元	もうすぐ２年生	もうすぐ３年生	もうすぐ４年生	もうすぐ５年生	もうすぐ６年生	卒業にむけて もうすぐ中学生	一年間のまとめ	一年間のまとめ	卒業に向けて
									立志式に向けて	
								新聞作り		
4	合宿や旅行、校外活動に関する単元	校外学習に行こう	校外学習に行こう	校外学習に行こう	校外学習に行こう	校外学習に行こう	校外学習に行こう	校外学習に行こう	校外学習に行こう	校外学習に行こう
				校内宿泊学習	校内宿泊学習	校内宿泊学習	校内宿泊学習	校内宿泊学習	校内宿泊学習	校内宿泊学習
						校外宿泊学習 （隔年）	校外宿泊学習 （隔年）	校外宿泊学習	校外宿泊学習	校外宿泊学習
						修学旅行に行こう （隔年）	修学旅行に行こう （隔年）		修学旅行に行こう （隔年）	修学旅行に行こう （隔年）
		作品展に行こう								
5	体育･文化的行事に関わる単元	学習発表会をがんばろう	学習発表会をがんばろう	学習発表会をがんばろう	学習発表会をしよう	学習発表会をしよう	学習発表会をしよう	学習発表会に向けて	学習発表会に向けて	学習発表会に向けて
6	集団･集会的活動を主とする単元	みんなで仲良く集会活動	みんなで仲良く集会活動	みんなで仲良く集会活動	集会活動	集会活動	集会活動			
					合同お楽しみ会	合同お楽しみ会	合同お楽しみ会			
		交流活動	交流活動	交流活動	交流活動	交流活動	交流活動			
								卒業生との思い出		
7	遊ぶ活動を主とする単元	○○遊びをしよう						レクをしよう		
8	日常の生活課題や散策活動に関する単元	元気に歩こう	元気に歩こう	元気に歩こう	徒歩学習	徒歩学習	徒歩学習			
								日常生活機器の利用	日常生活機器の利用	日常生活機器の利用
								身近なマナー	身近なマナー	身近なマナー
		買い物をしよう・調理をしよう　等								
9	職業の理解や働く活動を主とする単元							職場見学に行こう	職場見学に行こう	職場見学に行こう
10	つくる活動を主とする単元	みんなで作ろう、作品を作ろう								
11	演劇･音楽･ｽﾎﾟｰﾂを楽しむことを主とする単元	楽しく運動しよう								
12	科学や自然に親しむことを主とする単元	草花を育てよう	草花を育てよう	草花を育てよう	野菜や花を育てよう	野菜や花を育てよう	野菜や花を育てよう	野菜や植物を栽培しよう	野菜や植物を栽培しよう	野菜や植物を栽培しよう
								季節を感じよう		

資料2

資料3

今市特別支援学校　生活単元学習　指導内容分析表（単元種別）　※一部抜粋

学部			小	小	小	小	小	小	中	中	中	中	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	中	中	中	中	中	小	小	小	小	小
学年			1	2	3	4	5	6	1	1	2	3	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
単元名			みんな仲良し1年生	みんな仲良し2年生	みんな仲良し3年生	4年生になって	5年生になって	6年生になって	新しい仲間	生活目標・係決め	生活目標・係決め	生活目標・係決め	夏の生活	夏の生活	夏の生活	夏の生活	夏の生活	夏の生活	冬の生活	冬の生活	冬の生活	冬の生活	冬の生活	冬の生活	もうすぐ2年生	もうすぐ3年生	もうすぐ4年生	もうすぐ5年生	もうすぐ6年生	卒業に向けて・もうすぐ中学生	一年間のまとめ	一年間のまとめ	卒業にむけて	立志式に向けて	新聞づくり	校外学習に行こう	校外学習に行こう	校外学習に行こう	校外学習に行こう	校外学習に行こう
単元の種別			1										2												3											4				
指導事項	かかわる力	自己の理解と対処	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
		かかわりあいの基礎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		場に即した応答			●	●	●	●	●	●	●	●													●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
		集団参加	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	生活する力	健康管理											●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●			●								
		整理整とん	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●			●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●							
		掃除				●	●	●	●										●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
		洗濯																																						
		金銭の扱い																																		●	●	●	●	●
		買い物																																		●	●	●	●	●
		調理											●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●										
		情報機器の利用																																	●			●	●	●
		日程・予定			●	●	●						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		交通機関の利用																																			●	●	●	●
		公共施設の利用	●	●	●	●																														●	●	●	●	●
		社会の仕組み	●	●	●	●	●	●	●																												●	●	●	●
	働く力	役割		●	●	●	●	●		●	●	●																					●	●	●			●	●	●
		約束ときまり	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		道具の使い方	●	●	●	●							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
		仕事の知識				●	●	●																																
		生活設計・将来設計						●		●	●	●				●	●	●				●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●						
	楽しむ力	遊び	●	●	●	●							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●												●	●	●		
		作品制作	●	●	●	●							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
		表現活動																	●	●	●	●	●	●																
		鑑賞・見学																																					●	●
		草花・野菜の栽培																																						
		季節と自然	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●												●	●			

※単元の種別

1	学年始めの仲間づくりを主とする単元
2	季節と生活や習慣に関することを主とする単元
3	学校生活や人生の節目に関する単元
4	合宿や旅行、校外活動に関する単元
5	体育・文化的行事に関わる単元
6	集団・集会的活動を主とする単元

7	遊ぶ活動を主とする単元
8	日常の生活課題や散策活動に関する単元
9	職業の理解や働く活動を主とする単元
10	つくる活動を主とする単元
11	演劇・音楽・スポーツを楽しむことを主とする単元
12	科学や自然に親しむことを主とする単元

資料４

生活単元学習 年間指導計画（作成例）

指導形態名（生活単元学習）　　小学部６年１・２組

月	単元題材〈時数〉	ね　ら　い	主な学習活動・内容
4	６年生になって　〈１０〉	・新しい環境に慣れたり、自分の役割や目標を意識して活動に取り組んだりすることができる。　◎○●☆	・自己紹介や教室整備を行う。 ・係や目標、朝の会の歌を決め、それらに取り組む。 ・係分担表を作る。
	野菜や花を育てよう（～７月）　〈１９〉	・育てる植物について話し合ったり、生長に興味をもち、収穫を行うことができる。　◎○●☆	・育てる植物について話し合う。 ・植える準備や世話をする。 ・鑑賞や収穫をする。
5	みんなで作ろう（～１１月）　〈３５〉	・材料を選び工夫した制作活動をすることができる。　○●☆ ・自分の作品を友だちに紹介することができる。　◎☆	・季節に沿った作品やいろいろな素材を使った作品を制作する。 ・完成した作品の鑑賞や紹介をする。
6	校外宿泊学習　〈２０〉	・相互の交流を図り、楽しく安全に校外での諸活動に取り組むことができる。　◎○●☆ ・身の回りのことに自分で取り組むことができる。　○●	・行き先、交通手段、日程を知る。 ・見学地について調べる。 ・泊まり方について知る。 ・入浴学習や荷物調べをする。 ・思い出を振り返る。
7	夏の生活　〈１５〉	・夏の生活や夏の遊び知り、楽しむことができる。　◎○●☆	・夏の食べ物を食べたり、夏の遊びをしたりする。 ・夏休み中の目標や手伝いを決める。
9	修学旅行に行こう（～１０月）　〈３０〉	・教師や友だちと一緒に楽しく活動することができる。　◎☆ ・見学地の情報を知り、教師や友だちと一緒に簡単な計画を立てることができる。　◎○●	・行き先、交通手段、日程を知る。 ・入浴学習や荷物調べをする。 ・見学場所を自分たちで決める。 ・当日を振り返り、思い出の作品を作る。
10 11	学習発表会をしよう（～１１月）　〈２０〉	・練習に楽しく取り組み、大勢の人の前で発表をすることができる。◎○●☆ ・他の人の発表を鑑賞することができる。　◎☆	・期日や演技内容を知り、興味をもって練習に取り組む。 ・発表会に参加し、演技の発表をしたり他の人の発表を鑑賞したりする。
12	合同お楽しみ会　〈5〉	・友だちと楽しく活動することができる。　◎○●☆	・かざりを制作して飾ったり、出し物の練習に取り組んだりする。 ・友だちと一緒に会に参加する。
	冬の生活（～１月）　〈１５〉	・冬の生活や冬の遊びを知り、楽しむことができる。　◎○●☆	・冬の生活を知り、冬の食べ物を食べたり、冬の遊びをしたりする。
1	作品を作ろう 作品展に行こう　〈１５〉	・見通しをもって作品を作り、きまりを守って作品展を見学することができる。　◎○●☆	・出展する作品を作り、鑑賞し合う。 ・作品展の日時や内容を確認する。 ・作品展の見学をする。
2	卒業にむけて　〈２５〉	・小学部生活を振り返り、友だちと思い出を共有することができる。　◎○☆ ・卒業制作を行い、感謝の気持ちを表現することができる。　◎●☆	・写真整理をする。 ・一年間や小学部生活を振り返り、楽しかったことやがんばったことなどを発表する。 ・卒業制作を行い、感謝の気持ちと一緒に他学年の友だちにﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄする。
3	もうすぐ中学生　〈１０〉	・中学部の日課や授業内容を知ったり、先輩の話を聞いたりすることを通して、中学部への期待感を抱くことができる。　◎○●☆	・４月から何年生になるか確認する。 ・中学部の日課や学習内容を知る。 ・中学部についての先輩の話を聞く。 ・中学部生になったらがんばりたいことを考え、発表する。
通年	徒歩学習　〈３５〉	・友だちや教師と一緒に、目的地まで歩くことができる。　◎○☆ ・マナーや交通ルールを意識して歩くことができる。　◎○●	・公園を歩く。 ・学校近くの道を歩く。 ・目的地まで一定のペースで歩く。
	集会活動　〈３５〉	・大きな集団において、内容やﾙｰﾙをおおまかに理解し、友だちと関わって楽しく活動することができる。◎○●☆	・リトミック ・ゲーム ・誕生会
	交流活動　〈１０〉	・友だちや教師と一緒に、きまりを守って楽しく活動することができる。◎○●☆	・今市第二小学校との交流 ・小百小学校、轟小学校との交流

◎…かかわる力　○…生活する力　●…働く力　☆…楽しむ力

資料５

参観者用　生活単元学習 授業評価票（本日の授業を参観して、気づいたことを記入）

単元名	修学旅行に行こう	本時の題材	荷物調べをしよう	所属	小学部６年

生きる力を育む観点に立った学習活動の設定や授業構成について	指導項目	指導事項	指導内容	妥当性の評価
	◎かかわりあいの基礎	他者の話への注目・理解・応答	・教師や友だちの簡単な話に注目し、その内容や自分への要望が分かる。	A　B　C　D
	○日程・予定	日程に沿っ	・教師の簡単な指示を受けながら、日程に	A　B　C　D
	◎自己の理と対処		る。	A　B　C　D
	◎場に即し応答	報告・応答	たあいさつや報告をする。	A　B　C　D
	○整理整とん	分類	・物品を同じ種類で分ける。	A　B　C　D
		位置・場所の把握	・物品を元あった場所に片付ける。	A　B　C　D
	＜特記事項：授業構成、目標設定等について＞			
	＜今後の授業の改善に向けて＞			

授業で扱った主な指導項目・指導事項・指導内容について、おおむね時系列の順番で記載

主体性・自主性を育む指導の手立てに関して	児童生徒の活動状況からの有効性及び次回の指導の手立ての充実に向けて		
	主体性・自主性を育む観点	よかった点	改善点（自分だったらこうする等）
	① 興味・関心 ・授業展開 ・教材、教具		
	② 見通し、分かりやすさ ・授業の見通し ・活動の分かりやすさ		
	③ 目的意識・課題意識 ・目的理解や問題解決への意識		
	④ 自己選択・自己決定 ・選択･決定する場面設定 ・選択･決定するしやすさ		
	⑤ 自己評価 ・振り返る場面設定 ・振り返りのしやすさ		
	⑥ 満足感・達成感 ・楽しさ､達成感のもちやすさ ・教師や友だちと共有できる設定		

＜その他＞

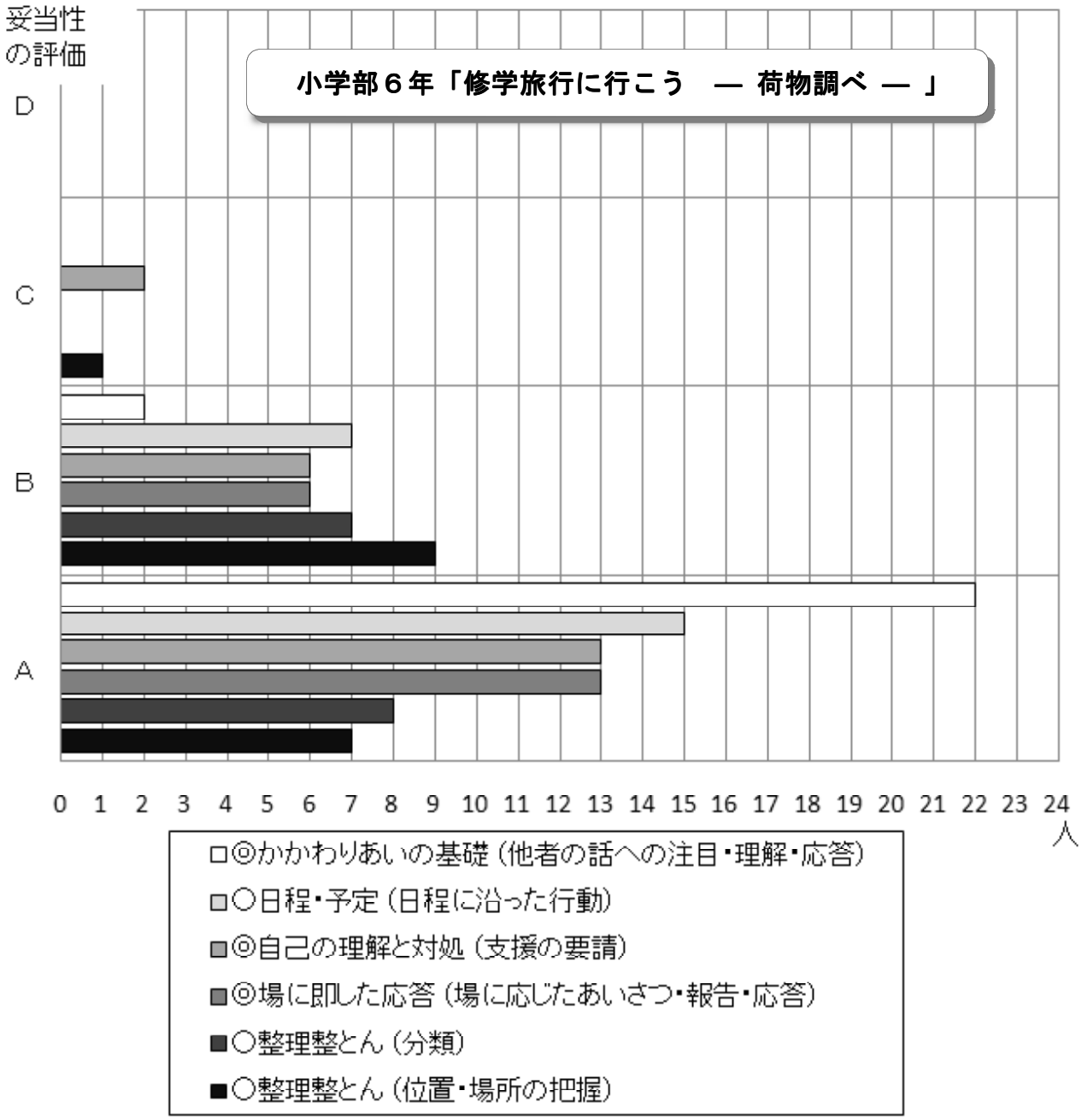
※展開の「指導の手立て・留意点」に記載された授業づくりの視点①～⑥を目安に、評価欄（主体性・自主性を育む指導の手立てに関して）に記入して下さい。

資料６

授業研究会呈示資料（授業評価票からの意見集約）

単元名	修学旅行に行こう	本時の題材	荷物調べ	所属	小学部６年
主体性・自主性を育む指導の手立てに関して	児童生徒の活動状況からの有効性の評価 及び次回の指導の手立ての充実に向けて				
		よかった点	改善点（自分だったらこうする等）		
	①	・台紙付きのチェック表。 ・掲示用の拡大プリント。 ・個の児童に応じた作業環境の設定。 ・マット上の物の配置が分かりやすかった。 ・旅行に行く楽しみが表情に表れていた。 ・写真付きのしおり。 ・Ｙ．Ｋの持ち物カード。間違えてもはり替えできる配慮。 ・しおりやかばんを必要なときに呈示したり回収したりしていた。	・リュックより、大きな荷物を先にしたほうがよかったと感じた。		
	②	・これからの活動内容についての明確な説明。具体的な見本。 ・チェクシート→名前シール→はる　の流れで理解と体感ができたので有効だと思う。 ・荷物調べカードが手元にあり、自分のものを自分で調べるという分かりやすさ。 ・自分で調べることで、必要な物、目的がより分かりやすかった。 ・忘れ物をした設定にし、子どもたちに考えさせた点。	・見本で提示したチェック表は、ペンを赤などにすれば見やすかったのではないか。		
	③	・楽しみにしている修学旅行の授業であり、具体物を用いた活動で理解しやすい。 ・修学旅行に行くことを理解し、取り組めていた。 ・自分から質問してきていた。 ・リストを読ませることで、意識させたり集中させたりしていた。	・必要なものの枚数が不明だった。シールを間違ってはっていた。 →袋に入れる前に教師の確認が必要。 ・支援を求められない児童がいたので、困ったときどうすればいいか事前に伝えておけるとよい。		
	④	・具体的な教材なので選択しやすかった。 ・荷物の整理等、自主的に取り組んでいて驚いた。 ・「私だけの持ち物」をあえて取り上げ、考えさせた点。 ・実物と同じ写真を使い、分かりやすかった。	・袋にシールをはる活動は、何の場面に必要かを確認するためにも自分で選ばせてもよい。 ・自分の荷物を管理するという点からも、荷物を持ってくる、バッグに入れるなどの活動は児童にやらせてもよいのでは。 ・個人で必要なものは個人的に聞いてもよかったのではないか。		
	⑤	・具体的な活動だったので、振り返りやすかった。	・振り返りがあまりなかった。 ・授業内容が途中になってしまっても、最後に本時の振り返りを少しでも入れたほうがよい。		
	⑥	・自分たちで活動する場面が多かったので満足感、達成感をもちやすかった。 ・持ち物の確認をすることで、クラス全体が修学旅行への意欲が出ているように見えた。 ・荷物の確認が終わり、満面の笑みがあちらこちらで見られた。 ・友だちや教師と持ち物について相談しながらチェックをし、期待感を高めていた。			

授業研究会呈示資料（授業評価票から、扱った指導内容等の妥当性に関する評価の集約）



本調査研究にあたり、研究協力校である県立今市特別支援学校の錦厚校長先生をはじめとする教職員の皆様、研究協力委員の小林和正先生、三品享子先生、森田記章先生には多大な御協力をいただきました。心より感謝いたします。また、県教育委員会事務局特別支援教育室より御指導御助言をいただきましたことに併せて深く感謝いたします。

平成23年３月発行

平成21、22年度　調査研究報告書
生きる力を育む生活単元学習の在り方

発　行　　栃木県総合教育センター　教育相談部
〒320-0002　栃木県宇都宮市瓦谷町1070
ＴＥＬ　０２８－６６５－７２１０
ＦＡＸ　０２８－６６５－７２１２
http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/

いきいき栃木っ子３あい運動

学びあい　喜びあい　はげましあおう